

平成26年度

業務実績報告書

平成27年6月

公立大学法人奈良県立医科大学

公立大学法人奈良県立医科大学 平成26年度計画の実施状況

<p>【年度計画の法人自己評価】</p> <p>S: 年度計画を上回って実施している</p> <p>A: 年度計画を十分実施している(90%~)</p> <p>B: 年度計画を十分には実施していない(60%~90%)</p> <p>C: 年度計画を大幅に下回っている。又は、年度計画を実施していない(~60%)</p>

中期目標・中期計画	平成26年度計画	法人自己評価																																																									
		年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																								
I 地域貢献<教育関連>																																																											
1 医療人の育成(医師関連) 医師派遣システムの適切な実行((仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営)																																																											
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営する ・医学科卒業生の県内卒後臨床研修病院への就職率60%を目指す <p>[中期計画]</p> <p>教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の公立・公的病院等からの医師派遣要請に対応し、医療需給の分析を踏まえて医師のマッチングを行う(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営 ・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援 ・「奈良学」の開設等を通じた、奈良を愛し奈良に貢献する医療人の育成 	<p>1 (1) 県立医大医師派遣センターを円滑に運営するためにセンターの機能等について学内外に周知を図る。</p>	<p>・センターの運営について県知事へ説明を行った(10月)。</p> <p>・「県立医大医師派遣センターの運用に関する規程」を作成するとともに、運用について県内の該当病院(第3条派遣先病院)に説明を行った(16病院)。</p> <p>以上のことから、年度計画は十分実施している。</p>	A																																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">—————></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置準備完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">H26年3月27日役員会において、県立医大医師派遣センター規程を承認 H26年4月1日、専任の副センター長を配置、運営開始</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*</td> <td>指標</td> <td>H23 51名</td> <td>51名</td> <td>54名</td> <td>57名</td> <td>60名</td> <td>63名</td> <td>66名** (60%)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>56名</td> <td>48名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">H26新卒予定者103名、全員が医師国家試験を受験。合格予定者のうち、35名が附属病院、13名が県内病院に就職見込み ※H26の県内就職率は46%(H26卒業の入学時定員105名に対する比率)。 ※H26の卒業予定者103名の他、既卒者5名が医師国家試験を受験、うち3名が県内就職、2名は県外就職等。</td> </tr> </tbody> </table> <p>*緊急医師確保修学資金による増13名含む **研究医養成コース進学見込2名除く定員111名に対する県内就職率約60%を確保するための必要数</p>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始	—————>			実績		H26年3月設置準備完了	運営				現状分析	H26年3月27日役員会において、県立医大医師派遣センター規程を承認 H26年4月1日、専任の副センター長を配置、運営開始							医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名	66名** (60%)	実績		56名	48名					現状分析	H26新卒予定者103名、全員が医師国家試験を受験。合格予定者のうち、35名が附属病院、13名が県内病院に就職見込み ※H26の県内就職率は46%(H26卒業の入学時定員105名に対する比率)。 ※H26の卒業予定者103名の他、既卒者5名が医師国家試験を受験、うち3名が県内就職、2名は県外就職等。							<p>2 (2) 引き続き南和地域公立病院等への医師配置支援のために当該病院等の実態やニーズの把握を行う。</p>	<p>南和地域公立病院等への医師配置支援のために当該病院等の実態や地域の医療ニーズを把握するとともに、9~10月にかけて医大各医局へ説明を行い(南和医療広域組合副管理者・医師派遣センター副センター長2名)、人事状況及び要望等を聞き取り、今後の調整を図った。</p> <p>以上のことから、年度計画は十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																				
(仮称)県立医大医師派遣センターの設置・運営	指標		設置準備	設置・運営開始	—————>																																																						
	実績		H26年3月設置準備完了	運営																																																							
	現状分析	H26年3月27日役員会において、県立医大医師派遣センター規程を承認 H26年4月1日、専任の副センター長を配置、運営開始																																																									
医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数*	指標	H23 51名	51名	54名	57名	60名	63名	66名** (60%)																																																			
	実績		56名	48名																																																							
	現状分析	H26新卒予定者103名、全員が医師国家試験を受験。合格予定者のうち、35名が附属病院、13名が県内病院に就職見込み ※H26の県内就職率は46%(H26卒業の入学時定員105名に対する比率)。 ※H26の卒業予定者103名の他、既卒者5名が医師国家試験を受験、うち3名が県内就職、2名は県外就職等。																																																									
	<p>3 (3) 一般教育検討委員会で奈良の歴史・文化を学ぶ授業科目の設置について検討する。</p>	<p>「一般教育検討委員会」及び「医大の将来像策定会議」で検討し、『現地を訪問し、奈良の医療状況・歴史・人物等を通して「奈良」についての理解を深める中で、奈良の医療に貢献する意思を涵養する』ことを一般目標とし、奈良学の講義骨子を決定した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																								

中期目標・中期計画		平成26年度計画		法人自己評価																																																																																			
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																		
<p>医師派遣システムの適切な実行((仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営)</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)県費奨学生配置センターを設置・運営する ・公立・公的病院等からの要望に対応した最適な医師配置(配置数)40名を目指す ・地域に貢献する医師の育成数延べ86名を目指す <p>〔中期計画〕</p> <p>(仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県費奨学生の配置を行う(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営 ・南和広域医療組合が整備する南和地域公立病院等への医師配置支援(再掲: I-1) ・県費奨学生のキャリアパスの構築と運用による地域に貢献する医師の育成 		<p>4</p> <p>(1) 県費奨学生の配置のための年間スケジュールを作成するなど、着実な運営に努める。</p>		<p>・来年度から義務を開始する奨学生と面談を実施し、各奨学生の意向を聞き各医局と調整したうえで配置案を策定した。</p> <p>・県費奨学生配置センターと県担当課等と、離脱防止策について検討も行った。</p> <p>・県費奨学生配置センター機関誌『Glocal』をvol.1からvol.3まで発行し、奨学生や臨床研修病院をはじめ県内病院へ情報提供するとともに、奨学生に対する説明会(6.7.8月)や交流会も開催した(8月)。</p> <p>・志望診療科アンケートにより志望先を調査した。</p> <p>・へき地医療支援機構との調整を行った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>		A																																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td>設置準備</td> <td>設置・運営開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>10月設置完了</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">県費奨学生配置センターを運営(年度計画参照)。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県費奨学金による医師配置数*</td> <td>指標</td> <td>H24 6名配置</td> <td>8名</td> <td>15名</td> <td>17名</td> <td>22名</td> <td>29名</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>8名</td> <td>13名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">6名義務開始(H26年4月～)、1名義務終了(H25年3月)。H26配置数としては、他学において、義務不履行1名、留年1名がいたため指標に未達。 ※またH26年度において新たに(7名中)3名の配置先を決定した(H27年度義務開始)。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">緊急医師確保を主とする医師の育成数</td> <td>指標</td> <td>H24 述べ13名</td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td>延べ52名</td> <td>延べ65名</td> <td>延べ78名</td> <td>延べ86名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ26名</td> <td>延べ39名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">目標を達成。</td> </tr> </tbody> </table> <p>*医師確保研修学研修資金の義務履行者を主とする医師配置数 (※近畿大学医学部奈良病院含む)</p>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標	設置準備	設置・運営開始				→	実績	10月設置完了	運営					現状分析	県費奨学生配置センターを運営(年度計画参照)。							県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名	実績		8名	13名					現状分析	6名義務開始(H26年4月～)、1名義務終了(H25年3月)。H26配置数としては、他学において、義務不履行1名、留年1名がいたため指標に未達。 ※またH26年度において新たに(7名中)3名の配置先を決定した(H27年度義務開始)。							緊急医師確保を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名	実績		延べ26名	延べ39名					現状分析	目標を達成。							<p>5</p> <p>(2) 引き続き南和地域公立病院等県内の医療実態とニーズを県と連携して把握し、県費奨学生の配置先を決定する。</p>		<p>将来の南和医療を見据えて、南和地域の医療に必要な人材の把握に努め、そういった人材を育成すべく配置先を決定した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>		A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																
(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営	指標	設置準備	設置・運営開始				→																																																																																
	実績	10月設置完了	運営																																																																																				
	現状分析	県費奨学生配置センターを運営(年度計画参照)。																																																																																					
県費奨学金による医師配置数*	指標	H24 6名配置	8名	15名	17名	22名	29名	40名																																																																															
	実績		8名	13名																																																																																			
	現状分析	6名義務開始(H26年4月～)、1名義務終了(H25年3月)。H26配置数としては、他学において、義務不履行1名、留年1名がいたため指標に未達。 ※またH26年度において新たに(7名中)3名の配置先を決定した(H27年度義務開始)。																																																																																					
緊急医師確保を主とする医師の育成数	指標	H24 述べ13名	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名																																																																															
	実績		延べ26名	延べ39名																																																																																			
	現状分析	目標を達成。																																																																																					
		<p>6</p> <p>(3) 引き続き県費奨学生のキャリアパスを構築しその適用に努めるとともに、地域に貢献(地域に配置)する医師を育成する。</p>		<p>地域医療学講座が作成したキャリアパスを使って県費奨学生配置センターが奨学生のキャリア形成支援を実施。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>		A																																																																																	

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																				
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																			
医療人の育成(看護師関連)																																							
<p>[中期目標] ・看護学科卒業生の県内就職率60%を目指す</p> <p>[中期計画] (仮称)看護実践・キャリア支援センターを設置・運営する等、看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。</p> <p><取組内容> ・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及び大学と附属病院の連携による看護学生の県内就職に向けた取組の推進</p>																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>指標</td> <td>H23 33名</td> <td>33名</td> <td>38名</td> <td>45名</td> <td>50名</td> <td>52名</td> <td>54名* (60%)</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>48名</td> <td>62名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護学科卒業生の県内就職者数</td> <td>現状分析</td> <td colspan="7"> 新卒者82名のうち進学者4名、66名が看護師として就職し、うち56名(附属病院52名、県内病院4名)が県内に就職、8名が保健師として就職し、うち6名が県内に就職。合計62名が県内に就職。比率にして75.6%が県内に残ったことになり、目標を大幅に上回った。(※H26県内就職率75.6%はH26卒業の入学及び編入学時定員85名のうち大学院進学者3名を除く82名に対する比率。) ※H26の卒業生82名の他、既卒者6名は県外就職、本学大学院修了者5名中1名は県内就職。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*入学及び編入学定員95名に対する県内就職率約60%を確保するための必要数</p>					項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30		指標	H23 33名	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (60%)	実績		48名	62名					看護学科卒業生の県内就職者数	現状分析	新卒者82名のうち進学者4名、66名が看護師として就職し、うち56名(附属病院52名、県内病院4名)が県内に就職、8名が保健師として就職し、うち6名が県内に就職。合計62名が県内に就職。比率にして75.6%が県内に残ったことになり、目標を大幅に上回った。(※H26県内就職率75.6%はH26卒業の入学及び編入学時定員85名のうち大学院進学者3名を除く82名に対する比率。) ※H26の卒業生82名の他、既卒者6名は県外就職、本学大学院修了者5名中1名は県内就職。						
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
	指標	H23 33名	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (60%)																															
	実績		48名	62名																																			
看護学科卒業生の県内就職者数	現状分析	新卒者82名のうち進学者4名、66名が看護師として就職し、うち56名(附属病院52名、県内病院4名)が県内に就職、8名が保健師として就職し、うち6名が県内に就職。合計62名が県内に就職。比率にして75.6%が県内に残ったことになり、目標を大幅に上回った。(※H26県内就職率75.6%はH26卒業の入学及び編入学時定員85名のうち大学院進学者3名を除く82名に対する比率。) ※H26の卒業生82名の他、既卒者6名は県外就職、本学大学院修了者5名中1名は県内就職。																																					
	7	<p>(1)・看護実践・キャリア支援センターを設置する。 ・看護学科学生のキャリア支援を行う。 ・看護師のキャリア支援・研修について、既存の研修メニュー等と調整する。 ・スキルスラボ等の活用を通じて、看護学科学生及び看護師の実践能力の向上を図る。</p>	<p>看護実践・キャリア支援センターを設置(4月)し、看護学科学生及び附属病院看護職者に対し、①看護基礎教育、②キャリア支援、③研究支援、④地域貢献の分野別事業計画に基づき、研修メニューの策定・実施、スキルスラボの活用をはじめとする各事業を実施した。以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																			
	8	<p>(2)奨学金制度導入の検討結果に基づいた医大として必要な取組の準備を行う。</p>	<p>11月、1月、3月に奈良県担当課との意見交換を実施。制度構築に向け引き続き協議することを確認した。以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																			

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																				
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																			
<p>2 看護師の地域貢献</p> <p>〔中期目標〕 ・認定看護師や専門看護師の総数を平成24年11月現在と比べ1.5倍を目指す</p> <p>〔中期計画〕 認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。</p> <p>〈取組内容〉 ・認定看護師養成研修への派遣、看護学研究科へのCNSコース設置等によるキャリア支援の充実 ・看護職員の専門知識及び能力養成のための研修プログラムの充実 ・病院看護部と大学看護学科、看護協会の相互の情報交換等の連携 ・(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置及びスキルスラボの設置、地域へのオープン化</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">認定看護師・専門看護師数</td> <td>指標</td> <td>H23 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>26名</td> <td>33名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="8">認定看護師(26名)・専門看護師(7名)の合計数33名がH26年度の指標を大きく上回っているが、今後もその養成に努め、中期計画の最終目標以上の成果の達成を目指す。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	認定看護師・専門看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		26名	33名					現状分析	認定看護師(26名)・専門看護師(7名)の合計数33名がH26年度の指標を大きく上回っているが、今後もその養成に努め、中期計画の最終目標以上の成果の達成を目指す。								9	(1) 引き続き、認定看護師の養成を推進する。特に「皮膚・排泄ケア」「慢性心不全」「手術看護」「がん化学療法看護」分野の養成を目指す。	<p>本年度1名(がん化学療法)が認定試験に合格し、有資格者は26名となった。</p> <p>また、本年度3名(慢性心不全、皮膚・排泄→12月修了、手術→3月修了)が認定看護師養成研修を修了し、来年度認定試験を受験する予定である。</p> <p>さらに、来年度認定看護師養成研修を1名(認知症)受講する予定になっている。</p> <p>よって、有資格者数は年度指標を達成し、計画を上回って実施している。</p>	S
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
認定看護師・専門看護師数	指標	H23 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																															
	実績		26名	33名																																			
	現状分析	認定看護師(26名)・専門看護師(7名)の合計数33名がH26年度の指標を大きく上回っているが、今後もその養成に努め、中期計画の最終目標以上の成果の達成を目指す。																																					
	10	(2) 専門看護師の養成を行うか、もしくは他の方法でのキャリア支援を行うかの検討を行う。 ・特定行為に係る看護師の指定研修について、本院での導入について検討し、必要な準備を行う。	<p>・看護学科運営会議において2度検討を行い、平成27年度に看護学科学生を対象とし、CNS・博士課程等についてニーズ調査を行うこととなった。</p> <p>・特定行為に係る看護師の指定研修機関の申請についても、病院長、看護部長をはじめとする関係者が参集し打ち合わせを行った。厚生労働省が主催する説明会にも参加し、平成27年度に申請を行うこととなった。</p> <p>以上から、年度計画を十分実施している。</p>	A																																			
	11	(3) 研修計画に基づく研修を実施する。 ・本院の看護職員が地域全体の看護のレベルアップのための指導・助言を行う。	<p>・教育・研修計画に基づく新人看護師:152時間、及び現任看護師:176.5時間の研修を実施し、さらに、レベル別にクリニカルラダー研修を実施した。</p> <p>・来年度実施に向け、看護師の知識・技術や業務内容等を評価し、認定するクリニカルラダー承認システムを試行実施した。</p> <p>・地域の看護師を対象に、がん領域の専門看護師と認定看護師による研修会を5回実施し、393名の参加があった。</p> <p>以上から、年度計画を十分実施している。</p>	A																																			
	12	(4) 引き続き協議を進めながら、各々(病院看護部、大学看護学科、看護協会)の役割分担を確立する。	<p>・看護実践・キャリア支援センターが外部(看護協会等)からの看護学科教員への講師招聘の主たる窓口となることが確認された。</p> <p>・本学スキルスラボにおいて、看護協会主催の研修が実施できるよう日程を調整した。</p> <p>以上から、年度計画を十分実施している。</p>	A																																			
	13	(5) 看護実践・キャリア支援センターを設置する。 スキルスラボについて、 ・医学科と調整を図り、看護学科の学生の利用を開始する。 ・病院看護部等の臨床スタッフの利用を開始する。	<p>・看護実践・キャリア支援センターを設置した(4月)。</p> <p>・臨床スタッフ(病院看護部等)を対象に81日間、医学科学生を対象に13日間スキルスラボを開放し活用させた。247開放日中94日使用と、約40%の稼働率であった。</p> <p>以上から、年度計画を十分実施している。</p>	A																																			

中期目標・中期計画	平成26年度計画								法人自己評価																																																						
									年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																					
I 地域貢献<研究関連>																																																															
3 研究成果等の地域への還元																																																															
〔中期目標〕																																																															
<ul style="list-style-type: none"> 外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する (仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する 住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する 																																																															
〔中期計画〕																																																															
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。																																																															
〔取組内容〕																																																															
<ul style="list-style-type: none"> 研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営 研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営 漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営 「住居医学」「認知症への対応」「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化 																																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についてもその中で併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等</td> <td>指標</td> <td>エビデンスの確立</td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">大和漢方医学薬学センター 11/1 漢方薬シンポジウム2014を開催し、広く県民に対して漢方に関する啓発を実施。 9/11 第2回大和漢方医学薬学セミナー(医師・薬剤師のための漢方セミナー)の開催。 1/11 第3回大和漢方医学薬学セミナー(中級者(医師)のための漢方セミナー)の開催。 MBT 住居医学(MBT)の研究成果をもとに内閣府「地域活性化モデルケース」へ奈良県、橿原市、明日香村と共同で提案し、選定される。 橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。</td> </tr> </tbody> </table>										項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標	設置	運営				→	実績	H26年3月設置	評価のあり方検討					現状分析	医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についてもその中で併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。							住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標	エビデンスの確立	講習会等の実施				→	実績	漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催					現状分析	大和漢方医学薬学センター 11/1 漢方薬シンポジウム2014を開催し、広く県民に対して漢方に関する啓発を実施。 9/11 第2回大和漢方医学薬学セミナー(医師・薬剤師のための漢方セミナー)の開催。 1/11 第3回大和漢方医学薬学セミナー(中級者(医師)のための漢方セミナー)の開催。 MBT 住居医学(MBT)の研究成果をもとに内閣府「地域活性化モデルケース」へ奈良県、橿原市、明日香村と共同で提案し、選定される。 橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。						
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																								
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営	指標	設置	運営				→																																																								
	実績	H26年3月設置	評価のあり方検討																																																												
	現状分析	医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についてもその中で併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。																																																													
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等	指標	エビデンスの確立	講習会等の実施				→																																																								
	実績	漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3回大和漢方医学セミナー開催																																																												
	現状分析	大和漢方医学薬学センター 11/1 漢方薬シンポジウム2014を開催し、広く県民に対して漢方に関する啓発を実施。 9/11 第2回大和漢方医学薬学セミナー(医師・薬剤師のための漢方セミナー)の開催。 1/11 第3回大和漢方医学薬学セミナー(中級者(医師)のための漢方セミナー)の開催。 MBT 住居医学(MBT)の研究成果をもとに内閣府「地域活性化モデルケース」へ奈良県、橿原市、明日香村と共同で提案し、選定される。 橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。																																																													
14	(1)研究推進戦略本部において、医大基本構想等とも調整を図りながら、研究に関する将来構想について検討し、策定を目指す。 ・研究活動に関する課題ごとの基本方針を戦略本部案として取りまとめ、順次、理事長に答申・提言する。	・医大の将来像策定会議で、県とともに将来の奈良医大の研究のあり方を検討し、方向性はほぼ定まった。 ・研究費の不正使用防止に係る諸規程を制定するとともに、体制の構築を図った。 ・科研費の更なる獲得のため、申請支援事業の拡充を図った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																												
15	(2)外部評価委員を選任する。 ・研究に関する第三者評価を行うための評価項目、評価方法等について検討する。 ・その検討内容について研究推進戦略本部において審議する。	研究推進戦略本部で、評価の方向性の検討は行ったが、医大の将来像策定会議における研究評価の議論を踏まえ、評価のあり方を検討する必要がある。 以上のことから、年度計画を十分には実施できていない。	B																																																												
16	(3)大和漢方医学薬学センターにおいて漢方に関する教育・研究・診療を開始する。	<ul style="list-style-type: none"> 教育に関して、医学科4年生に対し東洋医学講義(6コマ)を実施した。 研究に関して、漢方薬シンポジウム2014を奈良県と共催(対象:一般県民 参加者約680名)、定期的な大和漢方医学薬学セミナーの開催、(一社)漢方産業化推進研究会実施セミナーや研究会に参加する等、漢方の普及推進に関する取組みを積極的に行った。また、学内研究の公募案を作成した。 診療に関して、漢方外来を開始(毎週1回+月1回)した。 以上から、年度計画を十分実施している。	A																																																												
17	(4)研究成果を生かして、国の大型研究プロジェクトを申請する。	<ul style="list-style-type: none"> 住居医学(MBT)の研究成果をもとに、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に申請を行った。 奈良県・橿原市・明日香村とともに、内閣府の「地域活性化モデルケース」に選定され、国(内閣府)に「地域再生計画」を申請し、認定を受けた。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																												

中期目標・中期計画		平成26年度計画		法人自己評価																																				
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																			
4 健康増進の県民アプローチの充実 [中期目標] ・県民の健康増進支援組織を設置・運営する [中期計画] 市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。 <取組内容> ・県民の健康増進を図る支援組織の設置・運営 ・公開講座の充実等による予防医学や健康づくりに関する情報の提供 ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ※奈良県健康長寿コホースタディ: 県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査。 ※MBT構想: 奈良医大を中心としたまちづくりによる地域貢献。 (MBT: Medicine -Based Town) </div>																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">県民の健康増進支援組織の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置検討</td> <td>設置・運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>県民健康増進支援センター設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>現状分析</td> <td colspan="7">奈良県および県内の4保健所、7市町村からの25件の依頼に対して指導・助言を行い、37件の会議・研修会に参加した。奈良県の地域包括ケア推進室と共に、8市、8町、3村の介護保険事業の分析に関する指導・助言を行った。2市、1町から日常生活圏域ニーズ調査の分析依頼があり、県民28,354名のデータ分析を実施し、専門家としての助言を加えた。県実施の「奈良県版見える化」の作成に対して県民14,136名のデータ分析結果を提供した。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→	実績		県民健康増進支援センター設置	運営						現状分析	奈良県および県内の4保健所、7市町村からの25件の依頼に対して指導・助言を行い、37件の会議・研修会に参加した。奈良県の地域包括ケア推進室と共に、8市、8町、3村の介護保険事業の分析に関する指導・助言を行った。2市、1町から日常生活圏域ニーズ調査の分析依頼があり、県民28,354名のデータ分析を実施し、専門家としての助言を加えた。県実施の「奈良県版見える化」の作成に対して県民14,136名のデータ分析結果を提供した。							18 (1)・県民健康増進支援センターに専任スタッフを配置する。 ・県民健康増進支援センターにおいて、県市町村が行う保健事業に対し指導・助言などを行う。	19 (2)・県民健康増進支援センターにおいて、「くらしと医学」公開講座へアンケートの意見を反映させるなど県民の健康増進を視点にした開催内容の見直しを図る。 ・県民健康増進支援センターにおいて、新しいコンセプトの公開講座を検討する。	運営委員会において決定された県民健康増進支援センター規程に基づき、専任スタッフを配置し、県市町村が実施する保健事業(25件)に協力し、地域包括ケアシステム構築に関連する会議・研修会(37回)に参加した。専任スタッフを配置し、県市町村が行う保健事業に対し指導・助言を行ったので、年度計画を十分実施している。	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																
県民の健康増進支援組織の設置・運営	指標		設置検討	設置・運営				→																																
	実績		県民健康増進支援センター設置	運営																																				
	現状分析	奈良県および県内の4保健所、7市町村からの25件の依頼に対して指導・助言を行い、37件の会議・研修会に参加した。奈良県の地域包括ケア推進室と共に、8市、8町、3村の介護保険事業の分析に関する指導・助言を行った。2市、1町から日常生活圏域ニーズ調査の分析依頼があり、県民28,354名のデータ分析を実施し、専門家としての助言を加えた。県実施の「奈良県版見える化」の作成に対して県民14,136名のデータ分析結果を提供した。																																						
		20 (3)研究推進本部での検討結果に基づき、健康長寿コホート研究の計画立案等、健康増進に関する研究を実施していく。	合計8回の会議で、以下のような点を検討し、健康長寿コホート研究の学内公募案を確定したので、年度計画を十分実施している。 ・地域住民および病院患者を対象とするコホート研究の実行可能性と問題点 ・コホート研究のテーマを学内募集する場合の必須要件 ・公募研究の共通テーマについて ・公募研究の評価基準 ・コホート研究助成金の用途について	A																																				

中期目標・中期計画		平成26年度計画		法人自己評価																																																														
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																													
I 地域貢献＜診療関連＞																																																																		
5 断らない救急医療体制の整備																																																																		
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重篤な救急患者の高度救命救急センターの受入率を100%に近づける ・重篤な救急患者を断らないシステムを構築する ・県内救急搬送のコーディネート機能を運用する <p>〔中期計画〕</p> <p>県内の救急医療に関する諸機関の連携体制のもと、重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として断らない救急医療の実現に取り組む。</p> <p>＜取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重篤な救急患者等のスムーズな受入のための院内体制再構築及び、県内救急搬送コーディネート機能の支援 ・救急患者の転院等の仕組みや病院間連携体制の整備 ・高度救急医療を担う医師、看護師等の確保及び、専門医や認定看護師等の養成 ・医師等救急医療従事者の負担軽減対策(補助員配置、サービス、手当等)への取組 		21	<p>(1)・救急患者の受入体制の再構築及び救急搬送コーディネート機能等を検討する会議から出てくる課題について、優先度に応じて方向性を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ERプロジェクトの運用状況を見極めつつ、受入時間帯を拡大する。 ・急性期を脱した救急患者の転院等の仕組みや病院間連携体制の整備等の後方連携について関係医療機関と協議する。 ・医師等救急医療従事者の負担軽減対策を引き続き検討する。 	<p>・ERの時間延長(平日20時まで)(5月21日～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度土日ER実施に向けた院内体制に関する各診療科への調査及び調査結果の協議を行った。(1～2月) ・中南和地域救急患者受入等意見交換会で重症腹症(腹痛・吐下血)救急患者受入状況に関する協議がなされた。院内では手術・病病プロジェクト推進会議でこの件について協議を行った。(H26.5～3) <p>結果、重症腹症(腹痛・吐下血)救急患者については、地域医療機関でネットワークを構築し、当番表を作成した。(平成27年4月1日から実施予定)</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 85.7%</td> <td>87%</td> <td>89%</td> <td>91%</td> <td>93%</td> <td>95%</td> <td>100%に近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>81.2% (151/186件)</td> <td>98.7% (75/76件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="8"> <p>重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として、「断らない救急医療」実現のための体制整備に取り組んでいる。受入率については、救命救急センターがe-Matchの応需情報登録(疾患別)で受入可とした場合の受入率であり、25年度は81.2%で、前年を下回ったが、本年度は98.7%となっている。</p> <p>高度救命救急センターにおける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-Match・ルール(疾患別)に基づく応需状況:照会件数76件・受入件数75件 ・受入率98.7% (前年度:照会件数186件・受入件数151件・受入率81.2%) ・救急患者受入状況:照会件数660件・受入件数527件・受入率79.8% (前年度:照会件数653件・受入件数435件・受入率66.6%) </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">県内救急搬送コーディネート機能の運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内救急搬送コーディネート機能の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>ERプロジェクトの実施</td> <td>ERの拡大に向け検討・協議</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="8"> <p>25年9月2日から、本院総合診療科が中心となり、平日の勤務時間帯におけるERプロジェクトの運用を開始し、26年5月21日からは、平日の20時まで時間を延長している。</p> <p>さらに、現在、土日ERの27年度実施に向けた院内・院外の体制づくりのため、救急医療プロジェクト会議等において検討・協議中である。そのなかで、関連病院との病病連携や後方連携、県内搬送コーディネート等を含めた検討も必要であり、今後、県や関連病院とともに、県の救急医療全体の課題として検討・協議を行っていく必要がある。</p> </td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)					現状分析	<p>重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として、「断らない救急医療」実現のための体制整備に取り組んでいる。受入率については、救命救急センターがe-Matchの応需情報登録(疾患別)で受入可とした場合の受入率であり、25年度は81.2%で、前年を下回ったが、本年度は98.7%となっている。</p> <p>高度救命救急センターにおける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-Match・ルール(疾患別)に基づく応需状況:照会件数76件・受入件数75件 ・受入率98.7% (前年度:照会件数186件・受入件数151件・受入率81.2%) ・救急患者受入状況:照会件数660件・受入件数527件・受入率79.8% (前年度:照会件数653件・受入件数435件・受入率66.6%) 								県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標		県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始					実績		ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議					現状分析	<p>25年9月2日から、本院総合診療科が中心となり、平日の勤務時間帯におけるERプロジェクトの運用を開始し、26年5月21日からは、平日の20時まで時間を延長している。</p> <p>さらに、現在、土日ERの27年度実施に向けた院内・院外の体制づくりのため、救急医療プロジェクト会議等において検討・協議中である。そのなかで、関連病院との病病連携や後方連携、県内搬送コーディネート等を含めた検討も必要であり、今後、県や関連病院とともに、県の救急医療全体の課題として検討・協議を行っていく必要がある。</p>								22	<p>(2)・高度救急医療を担う医師、看護師等の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門医や認定看護師の養成を推進する。 	<p>搬送コーディネートを行う産科医を確保(18名)するとともに、高度救命医療を担う看護師のスキルアップのため積極的に研修に派遣した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																										
重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	H23 85.7%	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける																																																										
	実績		81.2% (151/186件)	98.7% (75/76件)																																																														
現状分析	<p>重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として、「断らない救急医療」実現のための体制整備に取り組んでいる。受入率については、救命救急センターがe-Matchの応需情報登録(疾患別)で受入可とした場合の受入率であり、25年度は81.2%で、前年を下回ったが、本年度は98.7%となっている。</p> <p>高度救命救急センターにおける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・e-Match・ルール(疾患別)に基づく応需状況:照会件数76件・受入件数75件 ・受入率98.7% (前年度:照会件数186件・受入件数151件・受入率81.2%) ・救急患者受入状況:照会件数660件・受入件数527件・受入率79.8% (前年度:照会件数653件・受入件数435件・受入率66.6%) 																																																																	
県内救急搬送コーディネート機能の運用	指標		県内救急搬送コーディネート機能の検討	運用開始																																																														
	実績		ERプロジェクトの実施	ERの拡大に向け検討・協議																																																														
現状分析	<p>25年9月2日から、本院総合診療科が中心となり、平日の勤務時間帯におけるERプロジェクトの運用を開始し、26年5月21日からは、平日の20時まで時間を延長している。</p> <p>さらに、現在、土日ERの27年度実施に向けた院内・院外の体制づくりのため、救急医療プロジェクト会議等において検討・協議中である。そのなかで、関連病院との病病連携や後方連携、県内搬送コーディネート等を含めた検討も必要であり、今後、県や関連病院とともに、県の救急医療全体の課題として検討・協議を行っていく必要がある。</p>																																																																	

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																																																					
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																				
<p>6 周産期医療体制の強化</p> <p>〔中期目標〕 ・新生児・母体の県内受入率を100%に近づける</p> <p>〔中期計画〕 総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。</p> <p>〈取組内容〉 ・GCUの増床等、総合周産期母子医療センターの機能充実 ・施設間ネットワークとの連携による、県内母体・新生児搬送コーディネート機能の充実 ・高度周産期医療を担う医師、助産師、看護師等の人材養成・確保</p>	23	<p>(1)リスクの高い妊婦に対する医療や高度な新生児医療等の周産期医療を担う本院総合周産期母子医療センターの円滑な運営を行う。 MFICU 6床 同後方病床 12床 NICU 許可 21床(運用 18床) GCU 12床</p>	<p>本院総合周産期母子医療センターを中心に、26年4月から母体搬送コーディネーター業務を実施しており、本年度の奈良医大における母体の県内搬送率は94.0%(H25:89.9%)となっており改善している。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">母体県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 92.4%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>93%</td> <td>100%に 近づける</td> <td>100%に 近づける</td> <td>100%に 近づける</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>92.6%</td> <td>94.7%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">本院総合周産期母子医療センターを中心に、26年4月から母体搬送コーディネーター業務を実施しており、本年度の奈良県における母体の県内搬送率は94.7%となっている。引き続き、母体の県内搬送率の向上を目指すためのソフト面でカバーを行っていく。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">新生児県内受入率</td> <td>指標</td> <td>H23 100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">新生児搬送体制は概ね確立されており、今後も県内搬送を維持できるよう努める。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">県内搬送コーディネートの運用</td> <td>指標</td> <td></td> <td>県内搬送 コーディネ ート機能 の検討</td> <td>運用開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>母体搬送 コーディネ ート体制 の検討</td> <td>母体搬送 コーディネ ートの 開始</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">H26年4月から本院総合周産期母子医療センターを中心として母体搬送コーディネーター業務を開始し、順調に進捗している。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づける	100%に 近づける	100%に 近づける	実績		92.6%	94.7%					現状分析	本院総合周産期母子医療センターを中心に、26年4月から母体搬送コーディネーター業務を実施しており、本年度の奈良県における母体の県内搬送率は94.7%となっている。引き続き、母体の県内搬送率の向上を目指すためのソフト面でカバーを行っていく。							新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	実績		100%	100%					現状分析	新生児搬送体制は概ね確立されており、今後も県内搬送を維持できるよう努める。							県内搬送コーディネートの運用	指標		県内搬送 コーディネ ート機能 の検討	運用開始				→	実績		母体搬送 コーディネ ート体制 の検討	母体搬送 コーディネ ートの 開始					現状分析	H26年4月から本院総合周産期母子医療センターを中心として母体搬送コーディネーター業務を開始し、順調に進捗している。							24	<p>(2)・搬送コーディネートを行う産科医・新生児科医の確保・増員に努める。 ・母体搬送コーディネーター事業を実施する。</p>	<p>・搬送コーディネートを行う産科医を確保した(18名)。 ・平成26年4月から本院総合周産期母子医療センターにおいて、母体搬送コーディネーター事業を実施しており、業務は順調に進捗している。 平成26年度の業務実績 情報収集 445件 情報収集・コーディネート 15件 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																
母体県内受入率	指標	H23 92.4%	93%	93%	93%	100%に 近づける	100%に 近づける	100%に 近づける																																																																																
	実績		92.6%	94.7%																																																																																				
	現状分析	本院総合周産期母子医療センターを中心に、26年4月から母体搬送コーディネーター業務を実施しており、本年度の奈良県における母体の県内搬送率は94.7%となっている。引き続き、母体の県内搬送率の向上を目指すためのソフト面でカバーを行っていく。																																																																																						
新生児県内受入率	指標	H23 100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%																																																																																
	実績		100%	100%																																																																																				
	現状分析	新生児搬送体制は概ね確立されており、今後も県内搬送を維持できるよう努める。																																																																																						
県内搬送コーディネートの運用	指標		県内搬送 コーディネ ート機能 の検討	運用開始				→																																																																																
	実績		母体搬送 コーディネ ート体制 の検討	母体搬送 コーディネ ートの 開始																																																																																				
	現状分析	H26年4月から本院総合周産期母子医療センターを中心として母体搬送コーディネーター業務を開始し、順調に進捗している。																																																																																						
	25	<p>(3)・産科、小児科に進む県費奨学生に提示する適切なキャリアパスを地域医療学講座とともに検討する。 ・周産期医療従事者等への研修会を開催する。 新生児蘇生法講習会 長期療養児在宅看護研修会</p>	<p>・県費奨学生の今後の進路について面談を実施した。(10名) 平成27年度義務履行者8名(産科6名、小児科2名) ・県費奨学生のキャリア形成支援、医師不足の医療機関の医師確保支援のため、県費奨学生配置センター運営委員会を開催した。(1,2,3月の3回) ・周産期医療従事者への研修会を開催した。 新生児蘇生法講習会 3回(6,7,10月、参加者延べ31名) 長期療養児童在宅医療・在宅訪問推進研修会 3回(6,11,12月、参加者延べ92名) 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																																																				

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																																																																													
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																												
<p>7 他の医療機関との連携強化</p> <p>[中期目標] ・「脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精神疾患」の地域医療連携パスの運用件数200件を目指す ・認知症疾患医療センターを設置・運営する ・中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する ・紹介率75%、逆紹介率60%を目指す</p> <p>[中期計画] 各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。</p> <p><取組内容> ・連携登録医制度の導入、予約診療等の拡充による逆紹介等の促進 ・各種地域医療連携パスの拡充、退院調整の効果的運用等による地域医療連携の推進 ・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働 ・地域医療機関と連携して認知症高齢者受け入れのための基幹型認知症疾患医療センターの設置 ・地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">地域医療連携パスの運用件数</td> <td>指標</td> <td>H23 137件</td> <td>140件</td> <td>150件</td> <td>165件</td> <td>185件</td> <td>200件</td> <td>200件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>127件</td> <td>197件</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成26年度においては、目標を達成。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 74.2%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>75.4%</td> <td>79.3%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成26年度においては、目標を達成。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">逆紹介率</td> <td>指標</td> <td>H23 42.1%</td> <td>43%</td> <td>48%</td> <td>53%</td> <td>56%</td> <td>58%</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>43.9%</td> <td>52.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成26年度においては、目標を達成。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中核的な緩和ケアセンターの設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>構想策定</td> <td>本格稼働</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>機能充実とあり方の検討</td> <td>新指針への対応</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成26年度は、がん診療連携拠点病院の新指針(H26年1月)に対応すべく、新たな緩和ケアの提供体制(7項目)を構築し、PDCA評価を行った。県内緩和ケアチームを対象にチーム研修会を開催する等、県における指導的立場として稼働を開始した。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	地域医療連携パスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	185件	200件	200件	実績		127件	197件					現状分析	平成26年度においては、目標を達成。							紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%	75%	実績		75.4%	79.3%					現状分析	平成26年度においては、目標を達成。							逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	58%	60%	実績		43.9%	52.0%					現状分析	平成26年度においては、目標を達成。							中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働				→	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応					現状分析	平成26年度は、がん診療連携拠点病院の新指針(H26年1月)に対応すべく、新たな緩和ケアの提供体制(7項目)を構築し、PDCA評価を行った。県内緩和ケアチームを対象にチーム研修会を開催する等、県における指導的立場として稼働を開始した。							<p>26 (1)連携登録医制度の充実、予約診療等の拡充により逆紹介等の促進を図る。</p> <p>27 (2)退院調整の効果的運用と啓発活動の推進により地域医療連携パスの運用件数の増加を図る。</p> <p>28 (3)本県緩和ケア提供体制の中で、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たすべく稼働する。</p> <p>29 (4)基幹型認知症疾患医療センターの運営を行う。</p> <p>30 (5)地域の医療従事者等を対象にした研修会の開催や情報発信を拡充する。 ①病院独自で行う医療情報の発信 ②地域医療連携を推進する地域医療連携懇話会及び地域医療連携を担う実務担当者の会議を各々年1回以上開催する。</p>	<p>・初診紹介予約制度の利用促進のため、制度未活用医療機関へ利用案内を郵送(639件)及び訪問活動(2件)により啓発するとともに、初診患者の予約枠を5診療科で拡大したことにより、初診紹介予約件数は対前年比793件の増となった。 ・登録医が治療情報の把握等のため、当院に紹介した患者の電子カルテ閲覧・病室訪問を認め連携登録医制度を充実した。 ・外来医長会議を活用し、診療科別・月別逆紹介患者数を提示するなど逆紹介推進の院内啓発を進めた。 以上のことから、年度計画は十分実施している。</p> <p>・緩和ケアチームと共同でがん患者を対象とした緩和ケアパスを作成、眼科疾患パスを含め地域連携パスを17種別に拡大し、目標を超える197件の運用件数を達成した。 ・医療者用パスシートを電子カルテに掲載(乳がん・肝がん・大腸がん)し、パス作成の医師負担軽減を図った。 ・5大がん等のパス啓発ポスターの院内掲示と「入院のしおり」へのパス運用啓発文の掲載を行った。 ・小児センター、C5病棟(神経内科等)、NICUで早期退院支援を6月から実施している。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p> <p>・「がん診療連携拠点病院等の整備について」(厚労省局長通知)に基づき、今年度に必要な整備(診療・情報収集提供体制等)と県への申請手続きを行った。 ・都道府県がん診療連携拠点病院研修会、がん就労研修会等を開催し、延べ205名が参加した。 ・県民公開講座「がんタウンミーティング」を開催し、148名が参加した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p> <p>・かかりつけ医研修会、認知症疾患医療センター担当者連絡協議会等を開催し、地域医療機関との連携を図った。 ・相談件数が倍増した。(H25:14件/月→H26:34件/月) 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p> <p>・「在宅緩和ケア」を主テーマに地域医療連携懇話会を開催、医師・看護師・社会福祉士等244人の参加があり緩和ケアに関する情報共有と緩和ケアパスの運用推進を図った。 ・県内病院の地域医療連携実務担当者により「なら地域医療連携実務者協議会」を設立し、医療機関相互の情報を共有した。(会員:35病院95人) 以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																								
地域医療連携パスの運用件数	指標	H23 137件	140件	150件	165件	185件	200件	200件																																																																																																								
	実績		127件	197件																																																																																																												
	現状分析	平成26年度においては、目標を達成。																																																																																																														
紹介率	指標	H23 74.2%	75%	75%	75%	75%	75%	75%																																																																																																								
	実績		75.4%	79.3%																																																																																																												
	現状分析	平成26年度においては、目標を達成。																																																																																																														
逆紹介率	指標	H23 42.1%	43%	48%	53%	56%	58%	60%																																																																																																								
	実績		43.9%	52.0%																																																																																																												
	現状分析	平成26年度においては、目標を達成。																																																																																																														
中核的な緩和ケアセンターの設置・運営	指標		構想策定	本格稼働				→																																																																																																								
	実績		機能充実とあり方の検討	新指針への対応																																																																																																												
	現状分析	平成26年度は、がん診療連携拠点病院の新指針(H26年1月)に対応すべく、新たな緩和ケアの提供体制(7項目)を構築し、PDCA評価を行った。県内緩和ケアチームを対象にチーム研修会を開催する等、県における指導的立場として稼働を開始した。																																																																																																														

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																			
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
<p>8 県内医療人への助言・指導</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療関係者に対する研修会等の開催回数を平成23年度に比べ倍増を目指す <p>〔中期計画〕</p> <p>県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルスラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の医療従事者等を対象にした各種研修会の開催や医療情報発信の充実(再掲: I-7) 臨床技能習得のためのスキルスラボの設置・運営及び地域へのオープン化 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">研修会等の開催回数</td> <td>指標</td> <td>H23 2回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>3回</td> <td>7回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="8">地域医療連携懇話会及び地域医療連携連絡協議会を地域医療連携室主催で開催するとともに、その他各専門分野において地域医療に従事する職員が参加する研修会(都道府県がん診療拠点病院研修会等)を多数開催しており、評価指標に示す回数は充分クリアしている。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	4回	実績		3回	7回					現状分析	地域医療連携懇話会及び地域医療連携連絡協議会を地域医療連携室主催で開催するとともに、その他各専門分野において地域医療に従事する職員が参加する研修会(都道府県がん診療拠点病院研修会等)を多数開催しており、評価指標に示す回数は充分クリアしている。								<p>30* (再)</p> <p>(1)地域の医療従事者等を対象にした研修会の開催や情報発信を拡充する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①病院独自で行う医療情報の発信 ②地域医療連携を推進する地域医療連携懇話会及び地域医療連携を担う実務担当者の会議を各々年1回以上開催する。 <p>(再掲: I-7)</p>	<p>・「在宅緩和ケア」を主テーマに地域医療連携懇話会を開催、医師・看護師・社会福祉士等244人の参加があり緩和ケアに関する情報共有と緩和ケアバスの運用推進を図った。</p> <p>・県内病院の地域医療連携実務担当者により「なら地域医療連携実務者協議会」を設立し、医療機関相互の情報を共有した。(会員:35病院95人)</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p> <p>(再掲: I-7)</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
研修会等の開催回数	指標	H23 2回	3回	4回	4回	4回	4回	4回																														
	実績		3回	7回																																		
	現状分析	地域医療連携懇話会及び地域医療連携連絡協議会を地域医療連携室主催で開催するとともに、その他各専門分野において地域医療に従事する職員が参加する研修会(都道府県がん診療拠点病院研修会等)を多数開催しており、評価指標に示す回数は充分クリアしている。																																				
	<p>31</p> <p>(2)スキルスラボについて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学科、看護学科の学生の利用を開始する。 ・病院看護部等の臨床スタッフの利用を開始する。 ・ACLSの講習等としての利用を開始する。 	<p>・臨床スタッフ(病院看護部等)を対象に81日間、医学科学生を対象に13日間スキルスラボを開放し活用させた。247開放日中94日使用と、約40%の稼働率であった。</p> <p>・麻酔科を中心とし、ACLS等の高度な救命処置についての研修も2回実施した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																			

中期目標・中期計画		平成26年度計画		法人自己評価																																																																																																										
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																									
Ⅱ教育																																																																																																														
1 リベラルアーツ教育の実践 医の心をもった医療人の育成 医療経営に関する教育の確保																																																																																																														
<p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部有識者を含む一般教育検討委員会を設置・運営する リベラルアーツ教育に沿った新カリキュラムを導入する 医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合90%を目指す 大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置する <p>〔中期計画〕</p> <p>カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般教育検討委員会の設置によるリベラルアーツ教育等の充実に向けたカリキュラムの構築 アンケート調査の実施による学生の意見及び満足度の的確な把握 大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置 		32	(1)一般教育検討委員会でカリキュラム編成案を作成する。	「一般教育検討委員会」及び「医大の将来像策定会議」で教養教育を含む、良き医療人の育成を目指した新カリキュラムの編成案を作成した。以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入</td> <td>指標</td> <td>・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査</td> <td>新カリキュラム(案)策定</td> <td>新カリキュラム導入</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学のアンケート調査実施</td> <td>新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">医学科・看護学科の教員で構成した「一般教育検討委員会」において、一般教育に係る諸課題(カリキュラム改正・英語教育等)について検討し、新カリキュラムの編成案を決定。また、教育開発センターに配置したコーディネータによる各授業の検証、医療英語の試行的な実施、教養図書図書館への整備などを実施。これらカリキュラムの見直し等を含めた、良き医療人の育成を目指した「教育改革2015」を26年度内に策定。以上の活動から十分な活動が行われていると考える。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 30.6%</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>38% (93%)</td> <td>38% (91%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">極めて強い自覚を持っている学生および強い自覚を持っている学生は38%であるが、自覚を持っている学生を含めると91%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 33.2%</td> <td>40%</td> <td>55%</td> <td>70%</td> <td>80%</td> <td>85%</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>41% (95%)</td> <td>40% (91%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">極めて強い自覚を持っている学生および強い自覚を持っている学生は40%であるが、自覚を持っている学生を含めると91%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> <td>指標</td> <td colspan="7">大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>「医療経営学」を設置</td> <td>主科目として学生募集</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">25年度に医療経営学を設置し、26年度に専門科目として、院生の選択科目に追加した。また、27年度入学生の募集を行い主科目選択者1名が合格。順調に進捗している。</td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入				実績	・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学のアンケート調査実施	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)					現状分析	医学科・看護学科の教員で構成した「一般教育検討委員会」において、一般教育に係る諸課題(カリキュラム改正・英語教育等)について検討し、新カリキュラムの編成案を決定。また、教育開発センターに配置したコーディネータによる各授業の検証、医療英語の試行的な実施、教養図書図書館への整備などを実施。これらカリキュラムの見直し等を含めた、良き医療人の育成を目指した「教育改革2015」を26年度内に策定。以上の活動から十分な活動が行われていると考える。							医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		38% (93%)	38% (91%)					現状分析	極めて強い自覚を持っている学生および強い自覚を持っている学生は38%であるが、自覚を持っている学生を含めると91%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。							指標	【看護学科】 H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%	実績		41% (95%)	40% (91%)					現状分析	極めて強い自覚を持っている学生および強い自覚を持っている学生は40%であるが、自覚を持っている学生を含めると91%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。							大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営							実績		「医療経営学」を設置	主科目として学生募集					現状分析	25年度に医療経営学を設置し、26年度に専門科目として、院生の選択科目に追加した。また、27年度入学生の募集を行い主科目選択者1名が合格。順調に進捗している。							33	(2)学生のニーズを把握するため、学生アンケート調査を実施する。	医学科および看護学科の全学生を対象にアンケート調査を実施した。 実施時期:10月～2月 医学科:回収率76%(516/680名) 看護学科:回収率95%(326/343名) 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																							
外部有識者を含む一般教育検討委員会の設置と新カリキュラムの導入	指標	・委員会設置 ・学生アンケート実施 ・他大学の状況調査	新カリキュラム(案)策定	新カリキュラム導入																																																																																																										
	実績	・一般教育検討委員会を設置 ・医学科1年生から6年生にアンケート調査実施 ・京都府立医科大学、東京医科歯科大学のアンケート調査実施	新カリキュラムの編成案の作成(「教育改革2015」の策定)																																																																																																											
現状分析	医学科・看護学科の教員で構成した「一般教育検討委員会」において、一般教育に係る諸課題(カリキュラム改正・英語教育等)について検討し、新カリキュラムの編成案を決定。また、教育開発センターに配置したコーディネータによる各授業の検証、医療英語の試行的な実施、教養図書図書館への整備などを実施。これらカリキュラムの見直し等を含めた、良き医療人の育成を目指した「教育改革2015」を26年度内に策定。以上の活動から十分な活動が行われていると考える。																																																																																																													
医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 H22 30.6%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																																																																																						
	実績		38% (93%)	38% (91%)																																																																																																										
	現状分析	極めて強い自覚を持っている学生および強い自覚を持っている学生は38%であるが、自覚を持っている学生を含めると91%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。																																																																																																												
	指標	【看護学科】 H22 33.2%	40%	55%	70%	80%	85%	90%																																																																																																						
実績		41% (95%)	40% (91%)																																																																																																											
現状分析	極めて強い自覚を持っている学生および強い自覚を持っている学生は40%であるが、自覚を持っている学生を含めると91%(左記カッコ内数値)であり、大多数の学生が自覚を持っていると考える。																																																																																																													
大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営	指標	大学院医科学専攻医療経営学科目の設置運営																																																																																																												
	実績		「医療経営学」を設置	主科目として学生募集																																																																																																										
	現状分析	25年度に医療経営学を設置し、26年度に専門科目として、院生の選択科目に追加した。また、27年度入学生の募集を行い主科目選択者1名が合格。順調に進捗している。																																																																																																												
		34	(3)「医療経営学」を選択科目として開講する。 27年度の主科目として、修士課程の院生の募集を開始する。	平成26年度に大学院医学研究科に設置した「医療経営学」について、選択科目として2名が単位を取得、平成27年度の募集では、主科目1名の入学者を決定した。以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																									

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																											
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																										
2 教育内容の評価 [中期目標] ・カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合を平成22年度に比べ半減を目指す ・評価体制の構築と評価を実施する [中期計画] 教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development)活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。 <取組内容> ・双方向の授業評価システムの構築及び実施による授業の改善 ・教員の表彰制度の導入 ・FD研修会の実施による教育能力の向上	35	(1)・医学科・看護学科において、授業評価を実施し、評価結果を教員に通知する。 ・教員に評価結果を基にした授業改善調査を実施する。 ・授業評価の集計結果を分析し公表する。 ・評価項目の検討を行う。	医学科・看護学科の全教科で授業評価を実施、授業評価の結果を各教員に通知するとともに結果をHPに掲載した。授業評価について、授業の聞き取りやすさ、プリント、スライドの効果的使い方では、どの分野でも良好な評価であった。また、学生の自主的な学習への取組については臨床医学教育科目が比較的高い結果であったが、同科目の回収率の低下が懸念される結果となった。授業評価結果を踏まえ、教員に評価結果を基にした授業改善調査を実施し、各科目改善点が提案され、今後の効果が期待される結果となった。 以上のことから年度計画を十分実施している。	A																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合</td> <td>指標</td> <td>【医学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 38% 授業 31%</td> <td>カリキュラム 41% 授業 33%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が41%、授業への不満が33%である。今後もカリキュラムと授業の改善を行っていく。</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>【看護学科】 H22 約40%</td> <td>39%</td> <td>36%</td> <td>30%</td> <td>26%</td> <td>22%</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合</td> <td>実績</td> <td></td> <td>カリキュラム 16% 授業 14%</td> <td>カリキュラム 10% 授業 4%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が10%、授業への不満が4%である。前年度に比べ、不満が減少しており、今後もカリキュラムと授業の改善を行っていく。</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	実績		カリキュラム 38% 授業 31%	カリキュラム 41% 授業 33%					現状分析	全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が41%、授業への不満が33%である。今後もカリキュラムと授業の改善を行っていく。							指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%	カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	実績		カリキュラム 16% 授業 14%	カリキュラム 10% 授業 4%					現状分析	全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が10%、授業への不満が4%である。前年度に比べ、不満が減少しており、今後もカリキュラムと授業の改善を行っていく。							33*(再)	(2)学生のニーズを把握するため、学生アンケート調査を実施する。 (再掲Ⅱ-1)
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																							
カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																																																						
	実績		カリキュラム 38% 授業 31%	カリキュラム 41% 授業 33%																																																										
	現状分析	全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が41%、授業への不満が33%である。今後もカリキュラムと授業の改善を行っていく。																																																												
	指標	【看護学科】 H22 約40%	39%	36%	30%	26%	22%	20%																																																						
カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合	実績		カリキュラム 16% 授業 14%	カリキュラム 10% 授業 4%																																																										
	現状分析	全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が10%、授業への不満が4%である。前年度に比べ、不満が減少しており、今後もカリキュラムと授業の改善を行っていく。																																																												
<table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="3">授業内容・教員の評価体制</td> <td>指標</td> <td></td> <td>評価体制の検討・構築</td> <td></td> <td>→</td> <td>評価の実施</td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td colspan="6">医学科・看護学科全科目の授業評価を実施</td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">医学科55教員、看護学科39教員の授業評価を実施し、各教員に結果通知を行い、医学科では28名の教員から自己評価書を回収した。</td> </tr> </tbody> </table>	授業内容・教員の評価体制	指標		評価体制の検討・構築		→	評価の実施		→	実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施						現状分析	医学科55教員、看護学科39教員の授業評価を実施し、各教員に結果通知を行い、医学科では28名の教員から自己評価書を回収した。							36	(3)24年度・25年度の状況を踏まえ、表彰制度について、他学の制度を参考に有効な実施方法を検討する。	他学の制度・実施状況も踏まえ、表彰制度について、FD研修会(H26:全7回実施)への積極的な参加を基準とすることを検討した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																	
授業内容・教員の評価体制		指標		評価体制の検討・構築		→	評価の実施		→																																																					
		実績		医学科・看護学科全科目の授業評価を実施																																																										
	現状分析	医学科55教員、看護学科39教員の授業評価を実施し、各教員に結果通知を行い、医学科では28名の教員から自己評価書を回収した。																																																												
	37	(4)教員を対象とした研修会を実施し、研修結果を分析・評価する。また、以下について検討する。 ・FD研修を登録制にする。 ・新任教員については、必ずFD研修を受講させる。 ・教員の採用時等に使用する履歴書にFD研修受講歴を明記させる。	医学科および看護学科でFD研修会を実施した。アンケートの結果、レクチャー、討論、ワークショップ共に、70%以上が「良かった」という評価であった。また、授業の改善手法について勉強になったとの意見が多かったが、一方では、積極的に自分で授業を改善するのではなく、具体的な改善方法を指導してほしいという意見もあり、教員の自己主導性を改善する必要性が示唆された。その他、FD研修について登録制、新任教員の必修化、履歴書への記入を実施した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																										

中期目標・中期計画	平成26年度計画							法人自己評価																														
								年度計画の実施状況及び評価理由	評価																													
<p>3 老朽・狭隘施設への対策</p> <p>[中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する</p> <p>[中期計画] 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。</p> <p><取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進 ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営</p> <table border="1" data-bbox="168 550 1019 805"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="8">県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備	実績		基本構想検討	→					現状分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。								<p>38</p> <p>(1) 医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。 ・新キャンパス基本計画について、平成27年度設計着手に向け、新キャンパス整備にかかる学内検討体制のもと検討を行い、基本計画を策定する。</p>	<p>・基本構想及び基本計画については、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、施設整備の前提となる「医大の目指すべき将来像」、施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」、具体的な整備計画となる「施設整備プラン」の順に、検討・策定を進めることとされた。 ・平成26年度は、教育・研究・診療など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を進めた。 策定会議(知事・理事長らで構成) 集中討議を含め 9回開催 同WG(審議官、本学教授らで構成) 10回開催 ・その過程では、平成25年度に実施した法人構成員へのアンケート・インタビューの結果を踏まえ、論点を絞った再インタビューを実施したほか、法人構成員の意識醸成のため知事講演会を実施した。 再インタビュー(4～5月) 186人を対象に実施 知事講演会(8/25本学大講堂) 教職員約600名が参加 ・年度計画決定後に、設立団体である県の意向も踏まえ、以上のような検討プロセスを採ることにより、議論の深化と法人構成員の合意形成に配慮した結果、平成26年度中の策定には至らなかったことから、年度計画を十分実施しているとは評価できず、今後、県と共に速やかに策定を進める必要がある。</p>	B
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
新キャンパスの整備	指標		基本構想策定	→	基本設計着手	→	→	建築工事発注準備																														
	実績		基本構想検討	→																																		
	現状分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。																																				
	<p>39</p> <p>(2) 医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。</p>		B																																			

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																				
			年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																			
Ⅲ 研究																																							
1 研究の適切な成果評価																																							
〔中期目標〕																																							
・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する																																							
〔中期計画〕																																							
研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。																																							
〈取組内容〉																																							
・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3)																																							
・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="8">医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についても併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。</td> </tr> </tbody> </table>					項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営					実績		H26年3月設置	評価のあり方検討					現状分析	医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についても併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。							
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営																																			
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討																																			
	現状分析	医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についても併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。																																					
	14*(再)	(1)・研究推進戦略本部において、医大基本構想等とも調整を図りながら、研究に関する将来構想について検討し、策定を目指す。 ・研究活動に関する課題ごとの基本方針を戦略本部案として取りまとめ、順次、理事長に答申・提言する。 (再掲: I-3)	・医大の将来像策定会議で、県とともに将来の奈良医大の研究のあり方を検討し、方向性はほぼ定まった。 ・研究費の不正使用防止に係る諸規程を制定するとともに、体制の構築を図った。 ・科研費の更なる獲得のため、申請支援事業の拡充を図った。 以上から、年度計画を十分実施している。 (再掲: I-3)	A																																			
	15*(再)	(2)・外部評価委員を選任する。 ・研究に関する第三者評価を行うための評価項目、評価方法等について検討する。 ・その検討内容について研究推進戦略本部において審議する。 (再掲: I-3)	研究推進戦略本部で、評価の方向性の検討は行ったが、医大の将来像策定会議における研究評価の議論を踏まえ、評価のあり方を検討する必要がある。以上のことから、年度計画を十分には実施できていない。 (再掲: I-3)	B																																			

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																											
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																										
<p>2 有能な研究者の獲得</p> <p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎医学系教員14名以上の育成を目指す PubMed対象の英文学術論文数を延べ1,400件を目指す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <small>PubMed: アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物学分野の学術論文検索サービス</small> </div> <p>[中期計画]</p> <p>研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) 基礎医学・社会医学研究者の増加を図るための研究医養成コースの充実 研究助教制度、顕彰制度、若手研究者支援制度の導入等、研究体制強化の取組実施 女性研究者の継続・復職支援の充実等による女性研究者支援 	14*(再)	<p>(1)・研究推進戦略本部において、医大基本構想等とも調整を図りながら、研究に関する将来構想について検討し、策定を目指す。</p> <p>・研究活動に関する課題ごとの基本方針を戦略本部案として取りまとめ、順次、理事長に答申・提言する。</p> <p>(再掲: I-3)</p>	<p>・医大の将来像策定会議で、県とともに将来の奈良医大の研究のあり方を検討し、方向性はほぼ定まった。</p> <p>・研究費の不正使用防止に係る諸規程を制定するとともに、体制の構築を図った。</p> <p>・科研費の更なる獲得のため、申請支援事業の拡充を図った。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p> <p>(再掲: I-3)</p>	A																																																										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">PubMed対象の英文学術論文数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H23 214件</td> <td>226件</td> <td>(累計) 446件</td> <td>(累計) 678件</td> <td>(累計) 916件</td> <td>(累計) 1160件</td> <td>(累計) 1400件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>234件</td> <td>(累計) 546件</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">PubMedの検索による値 平成26年度においても、目標を達成。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎医学系教員育成数(累計)</td> <td>指標</td> <td>H24 2名</td> <td>延べ4名</td> <td>延べ6名</td> <td>延べ8名</td> <td>延べ10名</td> <td>延べ12名</td> <td>延べ14名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>延べ5名</td> <td>延べ8名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">研究枠入学生6名(H24-2名、H25-2名、H26-2名)及び学内学生2名(H25-1名、H26-1名)により達成。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件	実績		234件	(累計) 546件					現状分析	PubMedの検索による値 平成26年度においても、目標を達成。							基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名	実績		延べ5名	延べ8名					現状分析	研究枠入学生6名(H24-2名、H25-2名、H26-2名)及び学内学生2名(H25-1名、H26-1名)により達成。							40	<p>(2)・学内に研究医養成コースを継続的に周知する。</p> <p>・研究医枠制度の柔軟な運用策を実施する。</p>	<p>・研究医養成コースの周知にも繋がるものとして、基礎医学系の各教室の研究を紹介する「基礎医学系教室研究紹介マガジン」を作成した(H24年度より継続事業)。</p> <p>・将来の研究医養成への誘導のため、本学学部生が定められたカリキュラム以外の場で指導教員の下、継続的な自主的研究活動に取り組むことを奨励するため、学生の受入教室に対し活動費の一部を助成する「学生研究活動支援事業」を、平成27年度から実施することを決定した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																							
PubMed対象の英文学術論文数(累計)	指標	H23 214件	226件	(累計) 446件	(累計) 678件	(累計) 916件	(累計) 1160件	(累計) 1400件																																																						
	実績		234件	(累計) 546件																																																										
	現状分析	PubMedの検索による値 平成26年度においても、目標を達成。																																																												
基礎医学系教員育成数(累計)	指標	H24 2名	延べ4名	延べ6名	延べ8名	延べ10名	延べ12名	延べ14名																																																						
	実績		延べ5名	延べ8名																																																										
	現状分析	研究枠入学生6名(H24-2名、H25-2名、H26-2名)及び学内学生2名(H25-1名、H26-1名)により達成。																																																												
	41	<p>(3)研究推進戦略本部において、特別共同研究助成事業や若手研究者研究助成制度を継続的に運用する。</p>	<p>5月に特別共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業を募集。新規の特別共同研究を3件、若手研究を9件採択した。特別共同研究については、25年度からの継続2件と合わせ、5件の研究を実施。</p> <p>以上のことから年度計画を十分実施している。</p>	A																																																										
	42	<p>(4)研究推進戦略本部における検討結果を踏まえ、新たな女性研究者への支援制度の検討を実施する。</p>	<p>妊娠・出産・子育て中や家族に要介護者を抱える女性研究者の研究継続支援として、研究支援員制度の対象範囲を拡大(女性の教員に加えて診療助教及び研究助教も対象とする)する制度変更を実施した。</p> <p>女性研究者への新たな支援制度について検討の上、制度変更を実施したことから、年度計画を上回って実施している。</p>	S																																																										

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																			
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
<p>3 健康・予防医療等研究範囲の拡大</p> <p>[中期目標] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する</p> <p>[中期計画] MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。</p> <p><取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3) ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲: I-4)</p>																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">リビングサイエンスの推進</td> <td>指標</td> <td></td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTIについて共同研究実施</td> <td>・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td></td> <td colspan="6">・健康長寿コホート研究に関しては、骨子を作成して、学内募集内容について公募案を確定。 ・MBTIについては、国(内閣府)の地域活性化モデルケースに採択され、橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	リビングサイエンスの推進	指標		新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討			→	実績		・県民健康増進支援センター設置 ・MBTIについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定					現状分析		・健康長寿コホート研究に関しては、骨子を作成して、学内募集内容について公募案を確定。 ・MBTIについては、国(内閣府)の地域活性化モデルケースに採択され、橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。						14*(再)	<p>(1)・研究推進戦略本部において、医大基本構想等とも調整を図りながら、研究に関する将来構想について検討し、策定を目指す。 ・研究活動に関する課題ごとの基本方針を戦略本部案として取りまとめ、順次、理事長に答申・提言する。 (再掲: I-3)</p>	<p>・医大の将来像策定会議で、県とともに将来の奈良医大の研究のあり方を検討し、方向性はほぼ定まった。 ・研究費の不正使用防止に係る諸規程を制定するとともに、体制の構築を図った。 ・科研費の更なる獲得のため、申請支援事業の拡充を図った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲: I-3)</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
リビングサイエンスの推進	指標		新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、 県内への普及検討			→																														
	実績		・県民健康増進支援センター設置 ・MBTIについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定																																		
	現状分析		・健康長寿コホート研究に関しては、骨子を作成して、学内募集内容について公募案を確定。 ・MBTIについては、国(内閣府)の地域活性化モデルケースに採択され、橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。																																			
	17*(再)	<p>(2)研究成果を生かして、国の大型研究プロジェクトを申請する。 (再掲: I-3)</p>	<p>・住居医学(MBT)の研究成果をもとに、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に申請を行った。 ・奈良県・橿原市・明日香村とともに、内閣府の「地域活性化モデルケース」に選定され、国(内閣府)に「地域再生計画」を申請し、認定を受けた。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲: I-3)</p>	A																																		
	20*(再)	<p>(3)研究推進本部での検討結果に基づき、健康長寿コホート研究の計画立案等、健康増進に関する研究を実施していく。 (再掲: I-4)</p>	<p>合計8回の会議を実施し、以下のような点を検討し、健康長寿コホート研究の学内公募案を確定した(資料;公募案)ので、年度計画を十分実施している。 ・地域住民および病院患者を対象とするコホート研究の実行可能性と問題点 ・コホート研究のテーマを学内募集する場合の必須要件 ・公募研究の共通テーマについて ・公募研究の評価基準 ・コホート研究助成金の用途について (再掲: I-4)</p>	A																																		

中期目標・中期計画		平成26年度計画						法人自己評価																																				
								年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																			
4 研究環境の改善 [中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する [中期計画] 新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。(再掲: II-3) <取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲: II-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲: II-3)																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲: II-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>基本設計着手</td> <td></td> <td></td> <td>建築工事発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。</td> </tr> </tbody> </table>		項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲: II-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手			建築工事発注準備	実績		基本構想検討	→					現状分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。							(1) 医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。 ・新キャンパス基本計画について、平成27年度設計着手に向け、新キャンパス整備にかかる学内検討体制のもと検討を行い、基本計画を策定する。 (再掲: II-3)						38* (再)	・基本構想及び基本計画については、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、施設整備の前提となる「医大の目指すべき将来像」、施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」、具体的な整備計画となる「施設整備プラン」の順に、検討・策定を進めることとされた。 ・平成26年度は、教育・研究・診療など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を進めた。 策定会議(知事・理事長らで構成) 集中討議を含め 9回開催 同WG(審議官、本学教授らで構成) 10回開催 ・その過程では、平成25年度に実施した法人構成員へのアンケート・インタビューの結果を踏まえ、論点を絞った再インタビューを実施したほか、法人構成員の意識醸成のため知事講演会を実施した。 再インタビュー(4~5月) 186人を対象に実施 知事講演会(8/25本学大講堂) 教職員約600名が参加 ・年度計画決定後に、設立団体である県の意向も踏まえ、以上のような検討プロセスを採ることにより、議論の深化と法人構成員の合意形成に配慮した結果、平成26年度中の策定には至らなかったことから、年度計画を十分実施しているとは評価できず、今後、県と共に速やかに策定を進める必要がある。 (再掲: II-3)	B
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																				
新キャンパスの整備 (再掲: II-3)	指標		基本構想策定	→	基本設計着手			建築工事発注準備																																				
	実績		基本構想検討	→																																								
	現状分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。																																										
		(2) 医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。 (再掲: II-3)						39* (再)		B																																		

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																																																																													
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																												
IV診療																																																																																																																
1 医師・看護師等の離職防止と人材確保																																																																																																																
〔中期目標〕																																																																																																																
<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する 女性医師数35名を目指す(後期臨床研修医を除く) 看護師の離職率を5%未満を目指す 就業規則を見直す 																																																																																																																
〔中期計画〕																																																																																																																
医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。																																																																																																																
〈取組内容〉																																																																																																																
<ul style="list-style-type: none"> 仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営 短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し 																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">女性医師数*</td> <td>指標</td> <td>H24 23名</td> <td>25名</td> <td>27名</td> <td>29名</td> <td>31名</td> <td>33名</td> <td>35名</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>27名</td> <td>26名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成25年度においては、目標を達成。 平成26年度については、指標値とほぼ同等であり、今後も引き続き増加に取り組む。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護師の離職率</td> <td>指標</td> <td>H23 7.49%</td> <td>7.0%</td> <td>6.5%</td> <td>6.0%</td> <td>5.5%</td> <td>5.0%</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H25 7.1%</td> <td>8.1%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成25年度の離職率と比較すると1.0%増(64人→76人 12人増)となっているが、平成22年度以前は10%を超えている年度も多く、近年は7~8%台で推移している。 また、日本看護協会の調べでは、24年度・25年度ともに全国平均が11.0%となっていることから、本学は低いと言える。今後も引き続き離職率の遅減に取り組む。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就業規則の見直し</td> <td>指標</td> <td></td> <td>見直し</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>検討中</td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成26年12月、短時間勤務職員制度の拡充を実施。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ワークライフバランス検討委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置済</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">ワークライフバランス検討委員会を設置し、平成25年度は2回、平成26年度は6月13日と同年11月18日に委員会を開催。</td> </tr> </tbody> </table>					項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名	実績		27名	26名					現状分析	平成25年度においては、目標を達成。 平成26年度については、指標値とほぼ同等であり、今後も引き続き増加に取り組む。							看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%	実績		H25 7.1%	8.1%					現状分析	平成25年度の離職率と比較すると1.0%増(64人→76人 12人増)となっているが、平成22年度以前は10%を超えている年度も多く、近年は7~8%台で推移している。 また、日本看護協会の調べでは、24年度・25年度ともに全国平均が11.0%となっていることから、本学は低いと言える。今後も引き続き離職率の遅減に取り組む。							就業規則の見直し	指標		見直し						実績		検討中	実施					現状分析	平成26年12月、短時間勤務職員制度の拡充を実施。							ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→	実績		設置済	運営					現状分析	ワークライフバランス検討委員会を設置し、平成25年度は2回、平成26年度は6月13日と同年11月18日に委員会を開催。						
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																									
女性医師数*	指標	H24 23名	25名	27名	29名	31名	33名	35名																																																																																																								
	実績		27名	26名																																																																																																												
	現状分析	平成25年度においては、目標を達成。 平成26年度については、指標値とほぼ同等であり、今後も引き続き増加に取り組む。																																																																																																														
看護師の離職率	指標	H23 7.49%	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%																																																																																																								
	実績		H25 7.1%	8.1%																																																																																																												
	現状分析	平成25年度の離職率と比較すると1.0%増(64人→76人 12人増)となっているが、平成22年度以前は10%を超えている年度も多く、近年は7~8%台で推移している。 また、日本看護協会の調べでは、24年度・25年度ともに全国平均が11.0%となっていることから、本学は低いと言える。今後も引き続き離職率の遅減に取り組む。																																																																																																														
就業規則の見直し	指標		見直し																																																																																																													
	実績		検討中	実施																																																																																																												
	現状分析	平成26年12月、短時間勤務職員制度の拡充を実施。																																																																																																														
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	指標		設置	運営				→																																																																																																								
	実績		設置済	運営																																																																																																												
	現状分析	ワークライフバランス検討委員会を設置し、平成25年度は2回、平成26年度は6月13日と同年11月18日に委員会を開催。																																																																																																														
*女性医師数:女性の臨床系教員(中央部門含む)																																																																																																																
43	(1)ワークライフバランスの推進について、ワークライフバランス検討委員会において継続的に検討を行う。	平成26年6月と11月の2回にわたりワークライフバランス検討委員会を開催し、短時間勤務制度の導入やワークライフバランス推進のための職員アンケートの内容について検討を行った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																													
44	(2)平成25年度に実施したアンケート調査結果を集計、分析する。 職員のニーズを把握し、短時間正規労働制度の導入等具体的な諸施策を作成する。	平成26年6月のワークライフバランス検討委員会において、平成25年度実施のアンケート結果について報告を行った。 年休については、取得日数が少ないうえに、何日取得したか分からないという回答も多かった。平成26年12月に導入した短時間勤務制度については、制度を利用した場合、同僚に迷惑をかけるのではないかと、職場の理解が得られるのか等の懸念があることが判明し、制度化するだけでなく、広く周知することの重要性も認識した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																													
45	(3)ワークライフバランス検討委員会において、定員増や病児保育を行うための学内保育園の整備計画を策定する。	平成27年1月より民間施設を活用した病児保育制度を導入。また、平成26年度において園舎を増築し、平成27年4月より定員を60人から90人へと増員を図った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																													

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																			
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																		
2 がん拠点病院としての機能の充実																																						
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ倍増を目指す がん治療の年間延べ患者数35,000名に対応する <p>[中期計画]</p> <p>都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 高度で専門的ながん医療の提供及び、がん医療に携わる人材の育成・確保 本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働(再掲: I-7) がん診療に関するチーム医療体制の充実・強化 がん登録の推進 																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">がん治療件数*</td> <td>指標</td> <td>H23 30,825件</td> <td>32,000件</td> <td>32,700件</td> <td>33,400件</td> <td>34,100件</td> <td>34,700件</td> <td>35,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>30,815件</td> <td>35,610件</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">県内他病院において放射線治療が新たに開始されたことから、平成24年度にがん治療件数は減少したが(H24:28,337名)、本院においても、がん診療拠点病院としての役割を十分に果たすべく、がん診療に関する施設・機器を整備し、研修会等による専門医や専門職種等の人材の育成を積極的に行ったことから、本年度の実績は、35,610件になり、今年度の指標(32,700件)は当然、H30年度の指標(35,000件)も上回った。</td> </tr> </tbody> </table> <p>*放射線治療、化学療法の数</p>					項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件	実績		30,815件	35,610件					現状分析	県内他病院において放射線治療が新たに開始されたことから、平成24年度にがん治療件数は減少したが(H24:28,337名)、本院においても、がん診療拠点病院としての役割を十分に果たすべく、がん診療に関する施設・機器を整備し、研修会等による専門医や専門職種等の人材の育成を積極的に行ったことから、本年度の実績は、35,610件になり、今年度の指標(32,700件)は当然、H30年度の指標(35,000件)も上回った。						
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
がん治療件数*	指標	H23 30,825件	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件																														
	実績		30,815件	35,610件																																		
	現状分析	県内他病院において放射線治療が新たに開始されたことから、平成24年度にがん治療件数は減少したが(H24:28,337名)、本院においても、がん診療拠点病院としての役割を十分に果たすべく、がん診療に関する施設・機器を整備し、研修会等による専門医や専門職種等の人材の育成を積極的に行ったことから、本年度の実績は、35,610件になり、今年度の指標(32,700件)は当然、H30年度の指標(35,000件)も上回った。																																				
	46	<p>(1)がん診療に関する施設・機器を整備し充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射線療法医師、化学療法医師等のがん専門医の育成・確保に努める。 がん専門医臨床研修事業等、がん医療に携わる人材の養成のための研修を実施する。 がん診療連携拠点病院間の役割分担と連携を推進し、がん診療提供環境の整備、充実を図る。 がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> E棟2期工事完成に向けて放射線治療装置の選定、PETCT装置の選定を行った。 がん薬物療法指導医取得(1名)、医学物理士(1名)と放射線治療専門医(1名)の増員。 腫瘍学セミナーを4回(6/26、7/8、9/18、3/19)開催し、延べ81名が参加した。 がん診療連携拠点病院研修会を6回(5/9、6/4、8/21、11/20、12/15、2/20)開催し、延べ273名が参加した。 がん相談支援センター相談員研修(1・2)、派遣がん相談支援センター相談員指導者研修会に各々2名参加させ、相談員の資質向上を図った。(指導者研修会については、当初の計画を上回って実施。1名→2名) <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																		
	28*(再)	<p>(2)本県緩和ケア提供体制の中で、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たすべく稼働する。</p> <p>(再掲: I-7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「がん診療連携拠点病院等の整備について」(厚労省局長通知)に基づき、今年度に必要な整備と県への申請手続きを行った。 都道府県がん診療連携拠点病院研修会、がん就労研修会等を開催し、延べ205名が参加した。 県民公開講座「がんタウンミーティング」を開催し、148名が参加した。 <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p> <p>(再掲: I-7)</p>	A																																		
	47	<p>(3)多職種連携によるチーム医療体制の充実に向けた取組を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。 がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。 <p>※がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。</p>	A																																		
	48	<p>(4)院内がん登録統計をホームページで公表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。 がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。 <p>※がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。</p>	A																																		

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																												
			年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																											
3 治療成績の一層の向上																																																															
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療内容向上委員会を設置・運営する 臨床指標(クリニカルインディケータ)を設定し、改善する 臨床指標をホームページへ掲載し、毎年更新する <p>[中期計画]</p> <p>(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 診療の質と量に対する現状分析と一層の向上を検討する(仮称)診療内容向上委員会の設置・運営 臨床指標の設定と管理及び、ホームページへの掲載と更新 																																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営実績報告</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>7月1日設置</td> <td>運営(臨床指標決定)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">計画どおり進捗している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">臨床指標の設定・公表</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設定・公表</td> <td>公表継続 数値改善</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td>設定 10月1日 公表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">計画どおり進捗している。 (H25公表 74項目 → H26公表 88項目)</td> </tr> </tbody> </table>					項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営実績報告				→	実績		7月1日設置	運営(臨床指標決定)					現状分析	計画どおり進捗している。							臨床指標の設定・公表	指標		設定・公表	公表継続 数値改善				→	実績		設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表					現状分析	計画どおり進捗している。 (H25公表 74項目 → H26公表 88項目)						
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																							
診療内容向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営実績報告				→																																																							
	実績		7月1日設置	運営(臨床指標決定)																																																											
	現状分析	計画どおり進捗している。																																																													
臨床指標の設定・公表	指標		設定・公表	公表継続 数値改善				→																																																							
	実績		設定 10月1日 公表	設定 10月1日 公表																																																											
	現状分析	計画どおり進捗している。 (H25公表 74項目 → H26公表 88項目)																																																													
49	(1)医療の質評価委員会を運営する。	<p>医療の質評価委員会開催 H26公表予定の指標について協議 H26公表分の臨床指標及びホームページでの公開を承認 医療安全:質評価・教育対策プロジェクトにおいて、診療科へのアンケート、TQM、クリティカルパス等質の向上に向けての具体的な取り組みについて検討協議を行い、クリティカルパス作成の推進(H26.8 97件→H27.3 115件)、他大学病院とのベンチマークの端末での参照、平成27年度のTQM活動の予算化等を行った。 以上のことから、年度計画は十分実施している。</p>	A																																																												
50	(2)適正な臨床指標を設定し、運用を行い、公表する。	<p>医療の質評価委員会で承認された平成26年度公表分の臨床指標について、ホームページで公開(10月1日実施)。 臨床指標の設定及び公表について計画どおり実施した。 以上のことから、年度計画は十分実施している。</p>	A																																																												

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																																																																					
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																				
<p>4 患者満足の一層の向上</p> <p>[中期目標] ・ホスピタリティマインド向上委員会を設置・運営する ・入院・外来の診療内容に総合的に満足している患者の割合90%以上を維持する ・診察の待ち時間が長いと感じる患者の割合年1%ずつの減少を目指す</p> <p>[中期計画] 医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。</p> <p><取組内容> ・ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営 ・患者満足度調査、声のポスト等による患者意見の病院運営への反映 ・職員を対象としたコミュニケーション研修の実施 ・ハード・ソフト(総合案内、誘導案内、ボランティアによる親切な案内の実施等)両面にわたる患者の視点にたったアメニティづくり</p>	51	(1)患者意見を反映するため、ホスピタリティマインド向上委員会を運営する。	・ホスピタリティマインド向上委員会の開催 第1回(H26.7.1) 第2回(H27.3.3) ・患者満足度調査の実施 外来:2月20日実施 入院:2月17日～3月24日実施 ・声のポスト 毎月、声のポストに届いた患者意見を病院運営会議等に報告し、検討している。 以上のことから、年間計画を十分実施している。	A																																																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">診療内容に満足している患者の割合</td> <td>指標</td> <td>H23 約90%</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>90%以上</td> <td>90%以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">患者満足度調査の結果、入院については91.5%、外来については96.6%の患者が「満足」と回答しており、平成26年度においては、目標を達成した。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合</td> <td>指標</td> <td>H23 35.3%</td> <td>35%</td> <td>34%</td> <td>33%</td> <td>32%</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>33.4%</td> <td>30.1%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">患者満足度調査の結果、平成26年度においては、目標を達成した。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>設置</td> <td>ホスピタリティマインド向上委員会開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">・本年度、委員会を2回開催し、審議を行った。(26年7月・27年3月) ・委員会において審議された内容の実現化に向けて検討を行った。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td>指標</td> <td></td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>研修体系の検討</td> <td>ホスピタリティマインド醸成研修の実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成26年7月から全ての病院職員を対象としてホスピタリティマインドを醸成するための研修会を実施した。(特定非営利活動法人「架け橋」に委託) ・当初計画:30名/1回、全13回(各2日間)、390名を対象 ・研修実績:7月～3月の間、参加者数延べ605名→平均23名/1回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	診療内容に満足している患者の割合	指標	H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	実績		90%以上	90%以上				現状分析	患者満足度調査の結果、入院については91.5%、外来については96.6%の患者が「満足」と回答しており、平成26年度においては、目標を達成した。							診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%	実績		33.4%	30.1%				現状分析	患者満足度調査の結果、平成26年度においては、目標を達成した。							ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→	実績		設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催				現状分析	・本年度、委員会を2回開催し、審議を行った。(26年7月・27年3月) ・委員会において審議された内容の実現化に向けて検討を行った。							ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標		実施				→	実績		研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施				現状分析	平成26年7月から全ての病院職員を対象としてホスピタリティマインドを醸成するための研修会を実施した。(特定非営利活動法人「架け橋」に委託) ・当初計画:30名/1回、全13回(各2日間)、390名を対象 ・研修実績:7月～3月の間、参加者数延べ605名→平均23名/1回							52	(2)ホスピタリティマインド醸成のための接客研修、コミュニケーション研修等を実施する。	特定非営利活動法人「架け橋」に委託し研修を実施した。 ・1回30名の病院職員を対象として、役職者3回、一般職10回、全13回(各2日間) ・平日の2日間(隔日)10時～16時 ・研修内容 「法と倫理」「インフォームドコンセント」「医療事故体験談」、グループワーク研修「暴力的な態度に出られたときの対処法」 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																	
診療内容に満足している患者の割合	指標	H23 約90%	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上																																																																																																	
	実績		90%以上	90%以上																																																																																																				
	現状分析	患者満足度調査の結果、入院については91.5%、外来については96.6%の患者が「満足」と回答しており、平成26年度においては、目標を達成した。																																																																																																						
診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	H23 35.3%	35%	34%	33%	32%	31%																																																																																																	
	実績		33.4%	30.1%																																																																																																				
	現状分析	患者満足度調査の結果、平成26年度においては、目標を達成した。																																																																																																						
ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	指標		設置	運営			→																																																																																																	
	実績		設置	ホスピタリティマインド向上委員会開催																																																																																																				
	現状分析	・本年度、委員会を2回開催し、審議を行った。(26年7月・27年3月) ・委員会において審議された内容の実現化に向けて検討を行った。																																																																																																						
ホスピタリティマインド醸成研修の実施	指標		実施				→																																																																																																	
	実績		研修体系の検討	ホスピタリティマインド醸成研修の実施																																																																																																				
	現状分析	平成26年7月から全ての病院職員を対象としてホスピタリティマインドを醸成するための研修会を実施した。(特定非営利活動法人「架け橋」に委託) ・当初計画:30名/1回、全13回(各2日間)、390名を対象 ・研修実績:7月～3月の間、参加者数延べ605名→平均23名/1回																																																																																																						
	53	(3)案内サインの整備や老朽箇所の改修を行う。また、案内員の配置等の充実を行い、案内業務の質の向上を図る。	正面玄関庇改修(7月未完了)、BC棟通路改修(3月未完了)工事を行った。 9月17日にコンビニエンスストアをオープンし、24時間利用可能とした。 また、案内サインについては、各種工事に併せ改修した。患者ニーズに合わせ案内員を配置し、親切な案内を実施した。 上記、施設整備等、年度計画を十分実施している。	A																																																																																																				

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																														
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																													
<p>5 老朽・狭隘施設への対策</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)中央手術棟の平成27年度中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する <p>〔中期計画〕</p> <p>附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)中央手術棟の完成と運営 ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3) ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進 ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手 	54	(1)E病棟のⅡ期工事の着実な進捗を図る。	<p>平成26年度は予定通りの進捗であり、今後も適正な進捗管理を行う。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">(仮称)中央手術棟の整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>第1期オープン</td> <td>→</td> <td>第2期竣工</td> <td>フルオープン・運営・機能充実</td> <td>→</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>第1期オープン</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="8">ほぼ順調に工事は推移しており、H27年度内での竣工を目指す。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="8">県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	(仮称)中央手術棟の整備	指標		第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン・運営・機能充実	→	→	実績		第1期オープン	→					現状分析	ほぼ順調に工事は推移しており、H27年度内での竣工を目指す。								教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績		基本構想検討	→					現状分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。								39*(再)	(2)医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。(再掲:II-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想及び基本計画については、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、施設整備の前提となる「医大の目指すべき将来像」、施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」、具体的な整備計画となる「施設整備プラン」の順に、検討・策定を進めることとされた。 ・平成26年度は、教育・研究・診療など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を進めた。策定会議(知事・理事長らで構成)集中討議を含め9回開催同WG(審議官、本学教授らで構成)10回開催 ・その過程では、平成25年度に実施した法人構成員へのアンケート・インタビューの結果を踏まえ、論点を絞った再インタビューを実施したほか、法人構成員の意識醸成のため知事講演会を実施した。再インタビュー(4~5月)186人を対象に実施知事講演会(8/25本学大講堂)教職員約600名が参加 	B
	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																								
	(仮称)中央手術棟の整備	指標		第1期オープン	→	第2期竣工	フルオープン・運営・機能充実	→	→																																																								
実績			第1期オープン	→																																																													
現状分析		ほぼ順調に工事は推移しており、H27年度内での竣工を目指す。																																																															
教育・研究部門移転後の附属病院の整備	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																																																									
	実績		基本構想検討	→																																																													
	現状分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」「研究」「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。																																																															
	55	(3)(仮称)臨床医学棟基本計画について、平成27年度着工に向け、現キャンパス整備にかかる学内検討体制のもと検討を進め、基本構想との整合を図りながら、基本計画を策定し、設計に着手する。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、教育・研究・診療など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を進めた。策定会議(知事・理事長らで構成)集中討議を含め9回開催同WG(審議官、本学教授らで構成)10回開催 ・その過程では、平成25年度に実施した法人構成員へのアンケート・インタビューの結果を踏まえ、論点を絞った再インタビューを実施したほか、法人構成員の意識醸成のため知事講演会を実施した。再インタビュー(4~5月)186人を対象に実施知事講演会(8/25本学大講堂)教職員約600名が参加 ・年度計画決定後に、設立団体である県の意向も踏まえ、以上のような検討プロセスを採ることにより、議論の深化と法人構成員の合意形成に配慮した結果、平成26年度中の策定、(仮称)臨床医学棟設計着手には至らなかったことから、年度計画を十分実施しているとは評価できない。 ・今後、県と共に速やかに策定を進め、(仮称)臨床医学棟の早期着工を図る必要がある。 	B																																																													
	56	(3)・医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。・新外来棟基本計画について、平成29年度設計着手に向け、現キャンパス整備にかかる学内検討体制のもと検討を進める。		B																																																													

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																			
			年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																		
Vまちづくり 1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備 [中期目標] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する [中期計画] 平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。 <取組内容> ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:II-3) ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3)																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:II-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想 策定</td> <td>→</td> <td>基本設計 着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事 発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想 検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状 分析</td> <td colspan="7">県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:II-3)	指標		基本構想 策定	→	基本設計 着手		→	建築工事 発注準備	実績		基本構想 検討	→					現状 分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。							38* (再)	(1)・医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。 ・新キャンパス基本計画について、平成27年度設計着手に向け、新キャンパス整備にかかる学内検討体制のもと検討を行い、基本計画を策定する。 (再掲:II-3)	・基本構想及び基本計画については、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、施設整備の前提となる「医大の目指すべき将来像」、施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」、具体的な整備計画となる「施設整備プラン」の順に、検討・策定を進めることとされた。 ・平成26年度は、教育・研究・診療など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を進めた。 策定会議(知事・理事長らで構成) 集中討議を含め 9回開催 同WG(審議官、本学教授らで構成) 10回開催 ・その過程では、平成25年度に実施した法人構成員へのアンケート・インタビューの結果を踏まえ、論点を絞った再インタビューを実施したほか、法人構成員の意識醸成のため知事講演会を実施した。 再インタビュー(4~5月) 186人を対象に実施 知事講演会(8/25本学大講堂) 教職員約600名が参加 ・年度計画決定後に、設立団体である県の意向も踏まえ、以上のような検討プロセスを採ることにより、議論の深化と法人構成員の合意形成に配慮した結果、平成26年度中の策定には至らなかったことから、年度計画を十分実施しているとは評価できず、今後、県と共に速やかに策定を進める必要がある。 (再掲:II-3)	B
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
新キャンパスの整備 (再掲:II-3)	指標		基本構想 策定	→	基本設計 着手		→	建築工事 発注準備																														
	実績		基本構想 検討	→																																		
	現状 分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。																																				
	39* (再)	(2)医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。 (再掲:II-3)		B																																		

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																				
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																			
2 地域に開かれたキャンパスづくり																																							
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す 教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する <p>[中期計画]</p> <p>新キャンパスの構想計画においては、交流広場や緑地等の地域との交流を図る施設、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等を設置し、県民への開放に努める。</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲:II-3) 教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3) 																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">新キャンパスの整備 (再掲:II-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想 策定</td> <td>→</td> <td>基本設計 着手</td> <td></td> <td>→</td> <td>建築工事 発注準備</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想 検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状 分析</td> <td colspan="8">県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。</td> </tr> </tbody> </table>					項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	新キャンパスの整備 (再掲:II-3)	指標		基本構想 策定	→	基本設計 着手		→	建築工事 発注準備	実績		基本構想 検討	→					現状 分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。							
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
新キャンパスの整備 (再掲:II-3)	指標		基本構想 策定	→	基本設計 着手		→	建築工事 発注準備																															
	実績		基本構想 検討	→																																			
	現状 分析	県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。																																					
	38* (再)	(1) 医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。 ・新キャンパス基本計画について、平成27年度設計着手に向け、新キャンパス整備にかかる学内検討体制のもと検討を行い、基本計画を策定する。 (再掲:II-3)	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想及び基本計画については、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、施設整備の前提となる「医大の目指すべき将来像」、施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」、具体的な整備計画となる「施設整備プラン」の順に、検討・策定を進めることされた。 平成26年度は、教育・研究・診療など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を進めた。 策定会議(知事・理事長らで構成) 集中討議を含め9回開催 同WG(審議官、本学教授らで構成) 10回開催 その過程では、平成25年度に実施した法人構成員へのアンケート・インタビューの結果を踏まえ、論点を絞った再インタビューを実施したほか、法人構成員の意識醸成のため知事講演会を実施した。 再インタビュー(4~5月) 186人を対象に実施 知事講演会(8/25本学大講堂) 教職員約600名が参加 年度計画決定後に、設立団体である県の意向も踏まえ、以上のような検討プロセスを採ることにより、議論の深化と法人構成員の合意形成に配慮した結果、平成26年度中の策定には至らなかったことから、年度計画を十分実施しているとは評価できず、今後、県と共に速やかに策定を進める必要がある。 (再掲:II-3) 	B																																			
	39* (再)	(2) 医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。 (再掲:II-3)		B																																			

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																							
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																						
3 教育・研究部門等移転後の跡地活用																																										
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する <p>[中期計画]</p> <p>現キャンパス跡地においては、憩いの広場、診療関連施設、新外来棟等の整備計画を推進するとともに、医大が進めるMBT構想を踏まえ、県と市のまちづくりのグランドデザインに沿った「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」の整備計画に参画する。</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3) ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進(再掲:IV-5) ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手(再掲:IV-5) 	<p>39*(再)</p> <p>(1) 医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。(再掲:II-3)</p>	<p>・基本構想及び基本計画については、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、施設整備の前提となる「医大の目指すべき将来像」、施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」、具体的な整備計画となる「施設整備プラン」の順に、検討・策定を進めることとされた。</p> <p>・平成26年度は、教育・研究・診療など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を進めた。</p> <p>策定会議(知事・理事長らで構成) 集中討議を含め9回開催 同WG(審議官、本学教授らで構成) 10回開催</p> <p>・その過程では、平成25年度に実施した法人構成員へのアンケート・インタビューの結果を踏まえ、論点を絞った再インタビューを実施したほか、法人構成員の意識醸成のため知事講演会を実施した。</p> <p>再インタビュー(4~5月) 186人を対象に実施 知事講演会(8/25本学大講堂) 教職員約600名が参加</p> <p>・年度計画決定後に、設立団体である県の意向も踏まえ、以上のような検討プロセスを採ることにより、議論の深化と法人構成員の合意形成に配慮した結果、平成26年度中の策定、(仮称)臨床医学棟設計着手には至らなかったことから、年度計画を十分実施しているとは評価できない。</p> <p>・今後、県と共に速やかに策定を進め、(仮称)臨床医学棟の早期着工を図る必要がある。(再掲:IV-5)</p>	B																																							
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>基本構想策定</td> <td>→</td> <td>老朽施設工事着手</td> <td>→</td> <td>基本・実施設計着手</td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>基本構想検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td></td> <td colspan="7">県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→	実績		基本構想検討	→					現状分析		県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。							<p>55*(再)</p> <p>(2) 教育・研究部門等移転対策検討委員会を県と合同で設置し、移転までおよび移転後の再整備に向けた調査・検討を行うとともに、附属病院整備基本構想を策定する。(再掲:IV-5)</p>	<p>再インタビュー(4~5月) 186人を対象に実施 知事講演会(8/25本学大講堂) 教職員約600名が参加</p> <p>・年度計画決定後に、設立団体である県の意向も踏まえ、以上のような検討プロセスを採ることにより、議論の深化と法人構成員の合意形成に配慮した結果、平成26年度中の策定、(仮称)臨床医学棟設計着手には至らなかったことから、年度計画を十分実施しているとは評価できない。</p> <p>・今後、県と共に速やかに策定を進め、(仮称)臨床医学棟の早期着工を図る必要がある。(再掲:IV-5)</p>	B
				項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
教育・研究部門移転後の附属病院の整備(再掲:IV-5)	指標		基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	→																																		
	実績		基本構想検討	→																																						
	現状分析		県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、「教育」・「研究」・「診療」など各分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を継続中であり、平成27年度には将来像の策定を完了するとともに、引き続き、将来像実現に必要な施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」の検討に着手。																																							
<p>56*(再)</p> <p>(3) 医大の将来像策定会議、同WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブWGを運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。</p> <p>・新外来棟基本計画について、平成29年度設計着手に向け、現キャンパス整備にかかる学内検討体制のもと検討を進める。(再掲:IV-5)</p>	<p>・年度計画決定後に、設立団体である県の意向も踏まえ、以上のような検討プロセスを採ることにより、議論の深化と法人構成員の合意形成に配慮した結果、平成26年度中の策定、(仮称)臨床医学棟設計着手には至らなかったことから、年度計画を十分実施しているとは評価できない。</p> <p>・今後、県と共に速やかに策定を進め、(仮称)臨床医学棟の早期着工を図る必要がある。(再掲:IV-5)</p>	B																																								

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																																													
			年度計画の実施状況及び評価理由	評価																																																												
<p>4 移転を契機とした研究分野での地域貢献</p> <p>[中期目標] ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する ・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する ・住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する</p> <p>[中期計画] 新キャンパスにおいては、(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置等、一定規模の産学官連携ゾーンを整備し、県や市と連携しながら、医農商工連携の一層の推進に寄与する。また、他大学との共同大学院構想を策定し、研究部門の強化を図る。</p> <p><取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲: I-3) ・研究に関する外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3) ・漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行う(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置・運営(再掲: I-3) ・「住居医学」「認知症への対応」「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲: I-3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>H26年3月設置</td> <td>評価のあり方検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>現状分析</td> <td colspan="7">医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についてもその中で併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)</td> <td>指標</td> <td></td> <td>エビデンスの確立</td> <td>→</td> <td>講習会等の実施</td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催</td> <td>漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3階大和漢方医学セミナー開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>現状分析</td> <td colspan="7">大和漢方医学薬学センター 11/1 漢方薬シンポジウム2014を開催し、広く県民に対して漢方に関する啓発を実施。 9/11 第2回大和漢方医学薬学セミナー(医師・薬剤師のための漢方セミナー)の開催。 1/11 第3回大和漢方医学薬学セミナー(中級者(医師)のための漢方セミナー)の開催。 MBT 住居医学(MBT)の研究成果をもとに内閣府「地域活性化モデルケース」へ奈良県、橿原市、明日香村と共同で提案し、選定される。 橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。</td> </tr> </tbody> </table>	項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営				→	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討						現状分析	医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についてもその中で併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。							住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施			→	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3階大和漢方医学セミナー開催						現状分析	大和漢方医学薬学センター 11/1 漢方薬シンポジウム2014を開催し、広く県民に対して漢方に関する啓発を実施。 9/11 第2回大和漢方医学薬学セミナー(医師・薬剤師のための漢方セミナー)の開催。 1/11 第3回大和漢方医学薬学セミナー(中級者(医師)のための漢方セミナー)の開催。 MBT 住居医学(MBT)の研究成果をもとに内閣府「地域活性化モデルケース」へ奈良県、橿原市、明日香村と共同で提案し、選定される。 橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。							<p>14*(再)</p> <p>(1)・研究推進戦略本部において、医大基本構想等とも調整を図りながら、研究に関する将来構想について検討し、策定を目指す。 ・研究活動に関する課題ごとの基本方針を戦略本部案として取りまとめ、順次、理事長に答申・提言する。 (再掲: I-3)</p>	<p>・医大の将来像策定会議で、県とともに将来の奈良医大の研究のあり方を検討し、方向性はほぼ定まった。 ・研究費の不正使用防止に係る諸規程を制定するとともに、体制の構築を図った。 ・科研費の更なる獲得のため、申請支援事業の拡充を図った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲: I-3)</p>	A
項目		現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																								
外部有識者を含む評価委員会の設置・運営(再掲: I-3)	指標		設置	運営				→																																																								
	実績		H26年3月設置	評価のあり方検討																																																												
	現状分析	医大の将来像策定会議において研究のあり方について検討中であり、評価のあり方についてもその中で併せて議論されており、議論の推移を見守り、評価のあり方を検討。																																																														
住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター等(再掲: I-3)	指標		エビデンスの確立	→	講習会等の実施			→																																																								
	実績		漢方薬シンポジウム2013開催 第1回大和漢方医学セミナー開催	漢方薬シンポジウム2014開催 第2回、第3階大和漢方医学セミナー開催																																																												
	現状分析	大和漢方医学薬学センター 11/1 漢方薬シンポジウム2014を開催し、広く県民に対して漢方に関する啓発を実施。 9/11 第2回大和漢方医学薬学セミナー(医師・薬剤師のための漢方セミナー)の開催。 1/11 第3回大和漢方医学薬学セミナー(中級者(医師)のための漢方セミナー)の開催。 MBT 住居医学(MBT)の研究成果をもとに内閣府「地域活性化モデルケース」へ奈良県、橿原市、明日香村と共同で提案し、選定される。 橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。																																																														
	<p>15*(再)</p> <p>(2)・外部評価委員を選任する。 ・研究に関する第三者評価を行うための評価項目、評価方法等について検討する。 ・その検討内容について研究推進戦略本部において審議する。 (再掲: I-3)</p>	<p>研究推進戦略本部で、評価の方向性の検討は行ったが、医大の将来像策定会議における研究評価の議論を踏まえ、評価のあり方を検討する必要がある。 以上のことから、年度計画を十分には実施できていない。 (再掲: I-3)</p>	B																																																													
	<p>16*(再)</p> <p>(3)大和漢方医学薬学センターにおいて漢方に関する教育・研究・診療を開始する。 (再掲: I-3)</p>	<p>・教育に関して、医学科4年生に対し東洋医学講義(6コマ)を実施した。 ・研究に関して、漢方薬シンポジウム2014を奈良県と共催(対象:一般県民 参加者約680名)、定期的な大和漢方医学薬学セミナーの開催、(一社)漢方産業化推進研究会実施セミナーや研究会に参加する等、漢方の普及推進に関する取組みを積極的に行った。また、学内研究の公募案を作成した。 ・診療に関して、漢方外来を開始(毎週1回+月1回)した。 以上から、年度計画を十分実施している。 (再掲: I-3)</p>	A																																																													
	<p>17*(再)</p> <p>(4)研究成果を生かして、国の大型研究プロジェクトを申請する。 (再掲: I-3)</p>	<p>・住居医学(MBT)の研究成果をもとに、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に申請を行った。 ・奈良県・橿原市・明日香村とともに、内閣府の「地域活性化モデルケース」に選定され、国(内閣府)に「地域再生計画」を申請し、認定を受けた。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲: I-3)</p>	A																																																													

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																															
<p>5 健康づくり・予防医療等への貢献</p> <p>[中期目標] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する</p> <p>[中期計画] MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。(再掲:Ⅲ-3)</p> <p><取組内容> ・研究活動に係る課題の検討、基本方針の策定等を行う(仮称)研究推進戦略本部の設置・運営(再掲:Ⅰ-3) ・「住居医学」・「認知症への対応」・「スポーツ医学」等リビングサイエンスへの取組強化(再掲:Ⅰ-3) ・奈良県健康長寿コホースタディ(1万人のコホート研究)、MBT構想等、健康増進に関する研究の推進及び地域への還元(再掲:Ⅰ-4)</p>																																			
	14*(再)	(1)・研究推進戦略本部において、医大基本構想等とも調整を図りながら、研究に関する将来構想について検討し、策定を目指す。 ・研究活動に関する課題ごとの基本方針を戦略本部案として取りまとめ、順次、理事長に答申・提言する。 (再掲:Ⅰ-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・医大の将来像策定会議で、県とともに将来の奈良医大の研究のあり方を検討し、方向性はほぼ定まった。 ・研究費の不正使用防止に係る諸規程を制定するとともに、体制の構築を図った。 ・科研費の更なる獲得のため、申請支援事業の拡充を図った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲:Ⅰ-3)	A																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)</td> <td>指標</td> <td>新研究テーマの検討 既存事業の推進</td> <td>→</td> <td>新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討</td> <td>→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施</td> <td>・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">・健康長寿コホート研究に関しては、骨子を作成して、学内募集内容について公募案を確定。 ・MBTIについては、国(内閣府)の地域活性化モデルケースに採択され、橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討	→			実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定					現状分析	・健康長寿コホート研究に関しては、骨子を作成して、学内募集内容について公募案を確定。 ・MBTIについては、国(内閣府)の地域活性化モデルケースに採択され、橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。							17*(再)	(2)研究成果を生かして、国の大型研究プロジェクトを申請する。 (再掲:Ⅰ-3)	<ul style="list-style-type: none"> ・住居医学(MBT)の研究成果をもとに、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に申請を行った。 ・奈良県・橿原市・明日香村とともに、内閣府の「地域活性化モデルケース」に選定され、国(内閣府)に「地域再生計画」を申請し、認定を受けた。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲:Ⅰ-3)	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																												
リビングサイエンスの推進 (再掲:Ⅲ-3)	指標	新研究テーマの検討 既存事業の推進	→	新研究テーマ事業の実施、県内への普及検討	→																														
	実績	・県民健康増進支援センター設置 ・MBTについて共同研究実施	・コホート研究に関する骨子策定 ・MBTで国の「地域活性化モデルケース」に選定																																
	現状分析	・健康長寿コホート研究に関しては、骨子を作成して、学内募集内容について公募案を確定。 ・MBTIについては、国(内閣府)の地域活性化モデルケースに採択され、橿原市、明日香村と「地域再生計画」の申請を行い、認定を受けた。																																	
	20*(再)	(3)研究推進本部での検討結果に基づき、健康長寿コホート研究の計画立案等、健康増進に関する研究を実施していく。 (再掲:Ⅰ-4)	合計8回の会議を実施し、以下のような点を検討し、健康長寿コホート研究の学内公募案を確定したので、年度計画を十分実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民および病院患者を対象とするコホート研究の実行可能性と問題点 ・コホート研究のテーマを学内募集する場合の必須要件 ・公募研究の共通テーマについて ・公募研究の評価基準 ・コホート研究助成金の用途について (再掲:Ⅰ-4)	A																															

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																															
VI 法人運営																																			
1 ガバナンス体制の充実強化																																			
〔中期目標〕 ・評価委員会の全体評価で好成績をあげる																																			
〔中期計画〕 中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。																																			
〈取組内容〉 ・全教職員による法人の方針の共有と法人運営に対する意識醸成 ・中期計画の着実な実行のための進捗管理の実施 ・法人の取組みの情報発信 ・職員の確保と資質の向上に向けた取組(SD等)の実施																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">評価委員会の評価</td> <td>指標</td> <td>常に評価結果を高い水準で維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>95.5% 達成 (評定A以上: 64/67項目)</td> <td>92.4% 達成 (評定A以上: 61/66項目)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>現状分析</td> <td colspan="6">昨年度、25年度は、8項目中7項目でⅣ「順調に進んでいる」、1項目(法人運営)でⅢ「おおむね順調に進んでいる」、全体として「順調に進んでいる」という評価結果であった。 (*当該年度の法人自己評価に対する評価委員会の評価結果は9月まで未確定のため、ここでは法人自己評価を明記する。) H26年度計画の法人自己評価においては、以下の通りとなった。 全66項目(再掲除く)中、S:3項目、A:58項目、B:5項目となり、92.4%の計画を達成(A以上)した。(再掲含→S:3項目、A:75項目、B:17項目)</td> </tr> </tbody> </table>					項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	評価委員会の評価	指標	常に評価結果を高い水準で維持						実績	95.5% 達成 (評定A以上: 64/67項目)	92.4% 達成 (評定A以上: 61/66項目)						現状分析	昨年度、25年度は、8項目中7項目でⅣ「順調に進んでいる」、1項目(法人運営)でⅢ「おおむね順調に進んでいる」、全体として「順調に進んでいる」という評価結果であった。 (*当該年度の法人自己評価に対する評価委員会の評価結果は9月まで未確定のため、ここでは法人自己評価を明記する。) H26年度計画の法人自己評価においては、以下の通りとなった。 全66項目(再掲除く)中、S:3項目、A:58項目、B:5項目となり、92.4%の計画を達成(A以上)した。(再掲含→S:3項目、A:75項目、B:17項目)					
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																												
評価委員会の評価	指標	常に評価結果を高い水準で維持																																	
	実績	95.5% 達成 (評定A以上: 64/67項目)	92.4% 達成 (評定A以上: 61/66項目)																																
	現状分析	昨年度、25年度は、8項目中7項目でⅣ「順調に進んでいる」、1項目(法人運営)でⅢ「おおむね順調に進んでいる」、全体として「順調に進んでいる」という評価結果であった。 (*当該年度の法人自己評価に対する評価委員会の評価結果は9月まで未確定のため、ここでは法人自己評価を明記する。) H26年度計画の法人自己評価においては、以下の通りとなった。 全66項目(再掲除く)中、S:3項目、A:58項目、B:5項目となり、92.4%の計画を達成(A以上)した。(再掲含→S:3項目、A:75項目、B:17項目)																																	
	57	(1)研修会等の機会をとらえ中期目標・中期計画について周知を図る。併せてアンケートなどを通じて認識状況の検証も行う。	職員に対して以下の通り、中期目標・中期計画について周知を図った。 ・新採職員オリエンテーション(4月):中期目標・中期計画のハンドブック配布と併せて概要を説明(180名)。 ・予算説明会(4月):予算説明と併せて、26年度計画について概要説明・周知(100名:理解率95.7%)。 ・決算説明会(7月):25年度計画で定めた事業の実施状況(結果)について説明・周知(115名:理解率97%)。 ・知事講演会(8月):中期計画にも関連する医大の将来像策定に向けた講演(約600名) ・平成27年度新採事務職員内定研修(12月):ハンドブック配布と併せて法人運営の概要説明。 ・年間を通じて、理事長・学長が本学にとって重要と考える情報や考えを「理事長・学長からのお知らせ」として、全教職員・学生にメールや学報にて発信。 研修会等の機会をとらえ、中期目標・中期計画の周知を図るとともに、アンケート等を通じて、認識状況の調査も行ったので、年度計画を十分実施している。	A																															
	58	(2)中期計画・平成26年度計画について、平成26年度における重点管理項目を定め、項目責任者による執行役員会議において進捗管理を行う。また、中長期計画推進委員会において、平成25年度の実績・取組状況について分析・評価を行い、各部署にフィードバックすることで、中期目標の達成に向けた中期計画の着実な推進を図る。	・平成26年度計画の進捗管理について、4半期ごとに進捗管理し、「中期計画 執行役員会議」において重点管理項目を決定するとともに、実施状況について報告・協議した。 ・25年度計画の業務実績について法人自己評価を行い、県評価委員会の評価結果とともに、「中期計画 執行役員会議」を通じ、各部署にフィードバックした。評価結果を踏まえ、「課題」とされた項目(奈良学の検討、救急受入率等)については、平成26年度は概ね実施・改善することができた。 当該年度計画の進捗管理について、法人のみならず、県も交えて4半期ごとに進捗管理を行うとともに、前年度実績についても評価結果を踏まえた取組を行ったので、年度計画を十分実施している。	A																															
	59	(3)中期目標・中期計画、その他法人の取組みをホームページ、学報等の活用により、県民にわかりやすく発信する。	・中期目標・中期計画に関して、平成25年度計画の業務実績に関する報告書(法人自己評価)及び評価結果、さらに今年度より新たに概要版を作成し、HPに掲載した。 ・年間を通じて、理事長・学長が本学にとって重要と考える情報や考えを「理事長・学長からのお知らせ」として、全教職員・学生にメールや学報にて発信。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																															
	60	(4)引き続き採用方法等の検討を行い有用な職員の確保に努めるとともに、職員の資質向上のために職位や経験等に応じた研修を実施する。	事務職員の採用については、年齢上限を35歳から40歳に引き上げ、また、医療技術職については、採用募集時期を7月から6月に早めることで、有用な職員の確保に努めた。 職員研修については、年8回管理職研修を実施し、資質向上に努めた。 以上のことから、年度計画を十分実施している。	A																															

中期目標・中期計画		平成26年度計画		法人自己評価																																																																																																					
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																																																																																				
2 ワークライフバランスの充実強化																																																																																																									
<p>[中期目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する ・就業規則を見直す ・年次有給休暇取得日数を平成22年に比べ倍増を目指す <p>[中期計画]</p> <p>医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入によるワークライフバランスの改善等により、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図る。</p> <p><取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営(再掲IV-1) ・職員の勤務環境や満足度の把握 ・短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し(再掲IV-1) 		<p>43*(再)</p> <p>(1)ワークライフバランスの推進について、ワークライフバランス検討委員会において継続的に検討を行う。 (再掲:IV-1)</p>		<p>平成26年6月と11月の2回にわたりワークライフバランス検討委員会を開催し、短時間勤務制度の導入やワークライフバランス推進のための職員アンケートの内容について検討を行った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲:IV-1)</p> <p>A</p>																																																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1人あたりの年次有給休暇取得日数</td> <td>指標 【医師】 H22 3.0日</td> <td>3.5日</td> <td>4日</td> <td>4.5日</td> <td>5日</td> <td>5.5日</td> <td>6日</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>2.8日</td> <td>2.4日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">ほぼ現状どおりで推移しており、取得率は依然として低いため、対策の検討に努める。別途、夏期休暇として、2.7日(7月～9月)を取得している。</td> </tr> <tr> <td>指標 【看護師】 H22 4.1日</td> <td>4.5日</td> <td>5日</td> <td>5.5日</td> <td>6日</td> <td>7日</td> <td>8日</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>3.6日</td> <td>4.5日</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">ほぼ現状どおりで推移しており、取得率は依然として低いため、対策の検討に努める。別途、夏期休暇として、4.1日(7月～9月)を取得している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">就業規則の見直し (再掲:IV-1)</td> <td>指標</td> <td>見直し</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>検討中</td> <td>実施</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">平成25年度、26年度とワークライフバランスアンケートを実施し、職員の意識、希望している施策等について、分析作業を実施。短時間勤務職員制度の拡充は実施済。当該アンケートの分析結果をもとに、その他ワークライフバランスの推進のための施策を検討。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ワークライフバランス検討委員会の設置・運営 (再掲:IV-1)</td> <td>指標</td> <td>設置</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>設置済</td> <td>運営</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">ワークライフバランス検討委員会を設置し、平成25年度は2回、平成26年度は6月13日と同年11月18日に委員会を開催。</td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	1人あたりの年次有給休暇取得日数	指標 【医師】 H22 3.0日	3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日	実績	2.8日	2.4日					現状分析	ほぼ現状どおりで推移しており、取得率は依然として低いため、対策の検討に努める。別途、夏期休暇として、2.7日(7月～9月)を取得している。							指標 【看護師】 H22 4.1日	4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日	実績	3.6日	4.5日						現状分析	ほぼ現状どおりで推移しており、取得率は依然として低いため、対策の検討に努める。別途、夏期休暇として、4.1日(7月～9月)を取得している。							就業規則の見直し (再掲:IV-1)	指標	見直し						実績	検討中	実施					現状分析	平成25年度、26年度とワークライフバランスアンケートを実施し、職員の意識、希望している施策等について、分析作業を実施。短時間勤務職員制度の拡充は実施済。当該アンケートの分析結果をもとに、その他ワークライフバランスの推進のための施策を検討。							ワークライフバランス検討委員会の設置・運営 (再掲:IV-1)	指標	設置	運営				→	実績	設置済	運営					現状分析	ワークライフバランス検討委員会を設置し、平成25年度は2回、平成26年度は6月13日と同年11月18日に委員会を開催。							<p>44*(再)</p> <p>(2)平成25年度に実施したアンケート調査結果を集計、分析する。 ・職員のニーズを把握し、短時間正規労働制度の導入等具体的な諸施策を作成する。 (再掲:IV-1)</p>		<p>平成26年6月のワークライフバランス検討委員会において、平成25年度実施のアンケート結果について報告を行った。 年休については、取得日数が少ないうえに、何日取得したか分からないという回答も多かった。平成26年12月に導入した短時間勤務制度については、制度を利用した場合、同僚に迷惑をかけるのではないかと、職場の理解が得られるのか等の懸念があることが判明し、制度化するだけでなく、広く周知することの重要性も認識した。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲:IV-1)</p> <p>A</p>	
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																																		
1人あたりの年次有給休暇取得日数	指標 【医師】 H22 3.0日	3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日																																																																																																		
	実績	2.8日	2.4日																																																																																																						
	現状分析	ほぼ現状どおりで推移しており、取得率は依然として低いため、対策の検討に努める。別途、夏期休暇として、2.7日(7月～9月)を取得している。																																																																																																							
	指標 【看護師】 H22 4.1日	4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日																																																																																																		
実績	3.6日	4.5日																																																																																																							
現状分析	ほぼ現状どおりで推移しており、取得率は依然として低いため、対策の検討に努める。別途、夏期休暇として、4.1日(7月～9月)を取得している。																																																																																																								
就業規則の見直し (再掲:IV-1)	指標	見直し																																																																																																							
	実績	検討中	実施																																																																																																						
現状分析	平成25年度、26年度とワークライフバランスアンケートを実施し、職員の意識、希望している施策等について、分析作業を実施。短時間勤務職員制度の拡充は実施済。当該アンケートの分析結果をもとに、その他ワークライフバランスの推進のための施策を検討。																																																																																																								
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営 (再掲:IV-1)	指標	設置	運営				→																																																																																																		
	実績	設置済	運営																																																																																																						
現状分析	ワークライフバランス検討委員会を設置し、平成25年度は2回、平成26年度は6月13日と同年11月18日に委員会を開催。																																																																																																								
		<p>45*(再)</p> <p>(3)ワークライフバランス検討委員会において、定員増や病児保育を行うための学内保育園の整備計画を策定する。 (再掲:IV-1)</p>		<p>平成27年1月より民間施設を活用した病児保育制度を導入。また、平成26年度において園舎を増築し、平成27年4月より定員を60人から90人へと増員を図った。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (再掲:IV-1)</p> <p>A</p>																																																																																																					

中期目標・中期計画	平成26年度計画		法人自己評価																																		
			年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																	
<p>3 同窓会・歴代卒業生との連携</p> <p>〔中期目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄附件数1,000件を目指す <p>〔中期計画〕</p> <p>同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と協力意識の向上を図るとともに、大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。</p> <p>〈取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学科・看護学科同窓会との連携・交流の強化と、大学への支援促進 <table border="1" data-bbox="168 518 1019 742"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">寄附件数</td> <td>指標</td> <td>H23 876件</td> <td>900件</td> <td>920件</td> <td>940件</td> <td>960件</td> <td>980件</td> <td>1,000件</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>817件</td> <td>717件</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7">上記件数は、一般県民や企業からの寄附金を含む法人への寄附金の総件数であり、卒業生からの寄附件数が特定されているものではなく、また、県への「ふるさと奈良県応援寄附金」を介した卒業生からの寄附金の件数は含まれていないため、H27から実質的な卒業生からの寄附金の件数を特定・把握した上で、その増加に努める。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	寄附件数	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件	実績		817件	717件					現状分析	上記件数は、一般県民や企業からの寄附金を含む法人への寄附金の総件数であり、卒業生からの寄附件数が特定されているものではなく、また、県への「ふるさと奈良県応援寄附金」を介した卒業生からの寄附金の件数は含まれていないため、H27から実質的な卒業生からの寄附金の件数を特定・把握した上で、その増加に努める。							61	<p>(1)・卒業生のアンケート結果や聞き取りした意見を基にカリキュラム改正の検討を行う。</p> <p>・同窓会と連携をして70周年記念事業の企画案に基づき準備を進めるとともに、寄附金の募集を行う。</p>	<p>・医大の将来像策定過程において実施したアンケートやインタビューの結果も踏まえ、英語教育や臨床実習の充実を盛り込んだ新カリキュラムの編成案を作成した。</p> <p>・70周年記念誌発行および記念式典開催に向け、企画委員会及び各部会を立ち上げ、内容を検討した。</p> <p>また、平成27年5月の70周年記念式典を期して寄附金の募集を開始すべく、本学役員、同窓会役員らで構成される募金推進委員会を立ち上げ、新たな基金の設置、効果的な募集方法、寄附金の用途等の制度設計を完了した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																														
寄附件数	指標	H23 876件	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件																													
	実績		817件	717件																																	
現状分析	上記件数は、一般県民や企業からの寄附金を含む法人への寄附金の総件数であり、卒業生からの寄附件数が特定されているものではなく、また、県への「ふるさと奈良県応援寄附金」を介した卒業生からの寄附金の件数は含まれていないため、H27から実質的な卒業生からの寄附金の件数を特定・把握した上で、その増加に努める。																																				
	62	<p>(2)同窓会組織強化に向けた支援を行うとともに、看護学科10周年記念式典を看護学科教員、看護学科卒業生と連携を図りながら実施する。</p>	<p>10月4日に10周年記念式典を開催、記念誌を発行し関係機関に配布した。</p> <p>以上のことから、年度計画を十分実施している。</p>	A																																	

中期目標・中期計画		平成26年度計画		法人自己評価																																		
				年度計画の実施状況及び評定理由	評定																																	
4 繰越欠損金の解消 [中期目標] ・繰越欠損金の解消を目指す [中期計画] 県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。 <取組内容> ・経営状況の適時・的確な把握と問題点・課題の法人内での共有 ・診療収入等収入確保のための取り組みの検討・実施 ・医薬・診療材料費の抑制と適正な人件費比率の確保		63	(1)法人全体の財務分析・長期収支見通し及び附属病院のSWOT分析等により、経営上の課題を抽出し、改善方策の検討・策定を行う。	・診療科ごとの稼働状況(収入、患者数、DPC分析など)を4半期ごと(8月、10月、1月)に各診療科に提示し、要改善点などを伝達。 ・附属病院の各診療科別SWOT分析について、各診療科に提示(10月)。 ・第2回法人経営検討会議(11月)において、上半期実績では経営状況が厳しくなることを踏まえて、数値目標を上方修正し、達成状況を管理していくこととした。 以上のとおり診療科ごとの課題抽出や改善方策の伝達、法人経営検討会議での改善方策の検討・実行を行ったことから、年度計画を十分実施している。	A																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">繰越欠損金の額</td> <td>指標</td> <td>H23 9.6億円</td> <td>6.0億円</td> <td>4.8億円</td> <td>3.6億円</td> <td>2.4億円</td> <td>1.2億円</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td>10.8億円</td> <td>10.5億円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現状分析</td> <td colspan="7"> 平成25年度末繰越欠損金 △1,077,767千円 (※退職給付債務計算方法変更による臨時損失431,955千円を含む) 平成26年度決算 +29,053千円 平成26年度末繰越欠損金 △1,048,714千円 </td> </tr> </tbody> </table>		項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30	繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円	実績		10.8億円	10.5億円					現状分析	平成25年度末繰越欠損金 △1,077,767千円 (※退職給付債務計算方法変更による臨時損失431,955千円を含む) 平成26年度決算 +29,053千円 平成26年度末繰越欠損金 △1,048,714千円							64	(2)適切な水準の病床稼働率の確保、平均在院日数の適正化、施設基準の取得・維持等により診療収入の確保を図るとともに、精度向上による診療報酬請求の一層の適正化、債権の適正な管理による未収金の抑制を図る。 また、H26診療報酬改定の影響を検証し必要な対応を行う。	・病床の一元管理を目的に入退院管理センターを設置、また病床稼働率の向上等を目的に病棟医長・師長会議を設置した。 ・病棟医長・師長会議において、空床や共用病床の定義を病床管理基準として定め、診療科間の病床利用を容易にすること等により病床稼働率の向上を図った。 ・中期計画予算設定値87%を上回る89.1%の稼働率の達成、前年度比約24億円の病院収入を増収した。 ・保険担当医長会議を設置し、減点対策等を周知徹底するとともに、DPC適正コーディング能力育成研修会を開催するなど、診療報酬請求のより一層の適正化に努めた。 ・定期督促に加え、連帯保証人への督促の実施、法的措置を実施するなど、未収債権の適正な管理に努めた。 ・平成26年度診療報酬改定は、消費税増税分の対応はされているものの、その他大幅な増額改定はなく、病院収入の約24億円の増収は、患者数が増加したことによる要因が大きい。 以上のことから、年度計画を上回って実施している。	S
項目	現状	H25	H26	H27	H28	H29	H30																															
繰越欠損金の額	指標	H23 9.6億円	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円																														
	実績		10.8億円	10.5億円																																		
	現状分析	平成25年度末繰越欠損金 △1,077,767千円 (※退職給付債務計算方法変更による臨時損失431,955千円を含む) 平成26年度決算 +29,053千円 平成26年度末繰越欠損金 △1,048,714千円																																				
		65	(3)価格交渉や安価な代替品への切替等により、医薬・診療材料費を抑制し、医薬・診療材料費比率の適減を図る。	平成26年度は、消費税増税の影響や、血液製剤に代表される高額薬剤の購入が大幅に増加した影響など、医薬材料費比率については1.5%～2.0%程度の上昇が避けられなかったところであるが、様々な値引き交渉努力(例:業者との一括値引き交渉回数を倍増)や、新設された医薬材料対策プロジェクト会議を通して、診療材料の安価な同等品への切替や後発医薬品への切替(H25:20.7%⇒H26:38.5%)等を積極的に行ったことにより、1.2%の上昇に抑制することができた。 以上のことから、年度計画を十分実施している。 (医薬材料比率) H23:43.1%、H24:42.6%、H25:43.4%、H26:44.6%	A																																	
		66	(4)経営上適正な投資と人件費比率を検討・設定するとともに、資金投入と人員配置による経費増と収入増を踏まえた中長期的な計画を策定し、検証を行う。	・監事(公認会計士)の指導により、E病棟建設負担と長期収支見通しの状況、支払利息と営業利益の比較や労働生産性と一人当たりの人件費の比較を行い、確認を受けた。 ・監事の指導を受けたことにより、中長期的収支計画における投資と人件費の検証手法について、一定の指標が確立したことから、年度計画は達成している。	A																																	

全体評価

平成26年度は、第二期中期計画(6年間)の2年目の年度となり、初年度に行った中期目標達成に向けた体制整備等を踏まえて、それらの成果を得るべく年度計画を設定した。その取組みを着実に進めた結果、概ね予定した成果を得ることができた。主な取組み状況は、以下のとおりである。

中期目標達成に向けた平成26年度の主な取組み

I 地域貢献に関する取組み

1 医療人の育成(医師関連・看護師関連)に関する取組みの状況

- 県立医大医師派遣センターの運用に関して規程を作成するとともに、県内の該当病院(派遣先16病院)に説明を行った。
- 南和地域公立病院等への医師配置支援のために当該病院等の実態や地域の医療ニーズを把握するとともに、学内各医局との間で今後の調整を図った(9～10月)。
- 「一般教育検討委員会」及び「医大の将来像策定会議」で「奈良学」について検討し、『現地を訪問し、奈良の医療状況・歴史・人物等を通して奈良についての理解を深める中で、奈良の医療に貢献する意思を涵養する』ことを一般目標とした講義骨子を決定した。
- 県費奨学生配置センターにおいて、平成27年度から義務を開始する奨学生と面談を実施し、各奨学生の意向を聞き各医局と調整したうえで配置案を決定した。また、センターの機関誌「Glocal」をvol.1～3まで発行し、奨学生や臨床研修病院をはじめとする県内病院へ情報提供するとともに、奨学生へ説明会(6～8月)や交流会を開催した(8月)。
- 看護実践・キャリア支援センターを設置し(4月)、看護学科学生のキャリア支援のための研修メニューを策定・実施するとともに、スキルスラボの活用をはじめとする各種事業を実施した。

2 看護師の地域貢献に関する取組みの状況

- 平成26年度の認定試験合格者を加え、認定看護師又は専門看護師有資格者は目標の27名を大幅に上回る33名となった。
- 教育・研修計画に基づく新人看護師152時間、及び現任看護師176.5時間の研修を実施し、さらに、レベル別にクリニカルリーダー研修を実施して、専門知識の習得と能力養成を図った。

3 研究成果等の地域への還元に関する取組みの状況

- 大和漢方医学薬学センターにおいて、漢方薬シンポジウム2014(奈良県と共催)や定期的な大和漢方医学薬学セミナーを開催する等、漢方の普及推進に関する取組みを積極的に行うとともに、学内研究の公募案を作成した。また、診療に関して、漢方外来(毎週1回+月1回)を開始した。
- MBT(Medicine-Based Town:医学を基礎としたまちづくり)の視点を取り入れ、奈良県・橿原市・明日香村とともに提案した取組み、「飛鳥シティ・リージョンの元気創造」が、内閣府の「地域活性化モデルケース」に選定された。これに伴い、内閣府に事業計画である「地域再生計画」を申請し、認定を受けた。

4 健康増進の県民アプローチの充実に関する取組みの状況

- 本学が設置した県民健康増進支援センターが、県・市町村が実施する保健事業(25件)に協力するとともに、地域包括ケアシステム構築に関する会議・研修会(37回)に参加した。

5 断らない救急医療体制の整備に関する取組みの状況

- 断らない救急医療体制の整備に向け、ERの平日20時までの時間延長(5月21日～)を行うとともに、平成27年度土日ER実施に向けた院内体制に関する各診療科への調査及び調査結果の協議を行った(1～2月)。また、中南和地域救急患者受入等意見交換会で重症腹症(腹痛・吐血)救急患者受入に関する協議を行い、地域医療機関によるネットワークを構築し、当番表を作成した。

6 周産期医療体制の強化に関する取組みの状況

○4月から附属病院の総合周産期母子医療センターにおいて、母体搬送コーディネーター事業を開始、業務は順調に進捗している(搬送コーディネーターを行う産科医18名確保)。

7 他の医療機関との連携強化に関する取組みの状況

○緩和ケアチームと共同でがん患者を対象とした緩和ケアパスを作成、同じく新たに作成した眼科疾患パスを含め地域連携パスを17種別に拡大し、目標(150件)を超える197件の運用件数を達成した。

8 県内医療人への助言・指導に関する取組みの状況

○「在宅緩和ケア」を主テーマに地域医療連携懇話会を開催、医師・看護師・社会福祉士等244人の参加があり緩和ケアに関する情報共有と緩和ケアパスの運用推進を図った。

II 教育に関する取組み

1 リベラルアーツ教育の実践、医の心をもった医療人の育成等に関する取組みの状況

○「一般教育検討委員会」及び「医大の将来像策定会議」で教養教育を含む、良き医療人の育成を目指した新カリキュラムの編成案を作成した。

○大学院医学研究科「医療経営学」を設置し、選択科目として2名が単位を取得、平成27年度の募集では、主科目1名の入学者を決定した。

2 教育内容の評価に関する取組みの状況

○教員の教育能力の向上を図るため、FD研修について登録制、新任教員の必修化、履歴書への記入を実施した。

3 老朽・狭隘施設への対策に関する取組みの状況

○キャンパス移転整備に関する基本構想及び基本計画については、県と医大が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において、整備の前提となる「医大の目指すべき将来像」、施設整備の基本的考え方となる「施設整備基本構想」、具体的な整備計画となる「施設整備プラン」の順に、検討・策定を進めることとされ、平成26年度は、教育・研究・診療など分野ごとに、目指すべき将来像と実現のための方法論について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら検討を進めた。

III 研究に関する取組み

1 研究の適切な成果評価に関する取組みの状況

○医大の将来像策定会議で、県とともに将来の奈良医大の研究のあり方及び研究評価のあり方を検討した。また、研究費の不正使用防止に係る諸規程を制定するとともに、体制の構築を図った。

2 有能な研究者の獲得に関する取組みの状況

○妊娠・出産・子育て中や家族に要介護者を抱える女性研究者の研究継続支援として、研究支援員制度の対象範囲を拡大した(女性の教員に加えて診療助教及び研究助教も対象とする)。

3 健康・予防医療等研究範囲の拡大に関する取組みの状況

○研究推進戦略本部において、健康長寿コホート研究の学内公募案を確定した。

4 研究環境の改善に関する取組みの状況

II-3を参照(再掲)

IV 診療に関する取組

1 医師・看護師等の離職防止と人材確保に関する取組みの状況

○ワークライフバランス検討委員会を開催し、平成25年度実施のアンケート結果を基に、ワークライフバランス推進方策について検討を行い、12月から短時間勤務制度を導入した。

○平成27年1月から民間施設を活用した病児保育制度を導入した。また、園舎を増築し、平成27年4月から定員を60人から90人に増員を図った。

2 がん拠点病院としての機能の充実にに関する取組みの状況

○高度で専門的ながん医療の提供に向け、E病棟に設置する放射線治療装置、PETCT装置を選定するとともに、がん薬物療法指導医の取得(1名)、医学物理士と放射線治療専門医の増員(各1名)を実施、腫瘍学セミナーを4回、がん診療連携拠点病院研修会を6回開催した。

○がん診療に関するチーム医療体制の充実・強化のためキャンサーボード(多診療科によるカンファレンス)を「肺がん」、「頭頸部腫瘍」、「骨腫瘍」について計74回行い、各科連携体制、集学的がん治療の充実に図るとともに、がん化学療法医療チーム研修会、緩和ケアチーム研修会を開催した。

3 治療成績の一層の向上に関する取組みの状況

○医療の質評価委員会で臨床指標について協議のうえ、ホームページで公開した(10月)。

4 患者満足の一層の向上に関する取組みの状況

○職員のホスピタリティマインド醸成を図るため、ホスピタリティマインド醸成研修を役職者3回、一般職10回の全13回(各2日間)実施した(委託:特定非営利活動法人「架け橋」)。

○アメニティの向上のため、正面玄関庇、BC棟通路を改修するとともに、コンビニエンスストア(24時間利用可能)をオープンした(9月)。

5 老朽・狭隘施設への対策に関する取組みの状況

○E病棟について、Ⅱ期工事を予定どおり実施。

その他、老朽・狭隘施設への対策については、Ⅱ-3を参照(再掲)

V まちづくりに関する取組

1 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備に関する取組みの状況

Ⅱ-3を参照(再掲)

2 地域に開かれたキャンパスづくりに関する取組みの状況

Ⅱ-3を参照(再掲)

3 教育・研究部門等移転後の跡地活用に関する取組みの状況

Ⅱ-3を参照(再掲)

4 移転を契機とした研究分野での地域貢献に関する取組みの状況

I-3を参照(再掲)

5 健康づくり・予防医療等への貢献に関する取組みの状況

Ⅲ-3を参照(再掲)

VI 法人運営に関する取組み

1 ガバナンス体制の充実強化に関する取組みの状況

- 平成25年度計画の業務実績について法人自己評価を行い、県評価委員会の評価結果とともに、「中期計画 執行役員会議」を通じ、各部局にフィードバックした。評価において課題とされた項目(奈良学の検討、救急受入率等)については、平成26年度は概ね改善することができた。
- 年間を通じて、理事長・学長が本学にとって重要と考える情報や考えを「理事長・学長からのお知らせ」として、全教職員・学生にメールや学報にて発信。

2 ワークライフバランスの充実強化に関する取組みの状況

IV-1を参照(再掲)

3 同窓会・歴代卒業生との連携に関する取組みの状況

- 70周年記念誌発行及び記念式典開催に向け、企画委員会及び各部会を立ち上げ、内容を検討した(平成27年5月23日に70周年記念式典を実施)。また、記念式典を期して寄附金の募集を開始すべく、本学役員、同窓会役員らで構成される募金推進委員会を立ち上げ、新たな基金の設置、効果的な募集方法、寄附金の使途等の制度設計を完了した。
- 10月4日に看護学科10周年記念式典を開催、記念誌を発行し関係機関に配布した。

4 繰越欠損金の解消に関する取組みの状況

- 適切な水準の病床稼働率の確保、平均在院日数の適正化等による診療収入の確保のため、病床の一元管理を目的とする入退院管理センターを設置、また、病棟医長・師長会議を設置し、診療科間の病床利用を容易にすること等により、89.1%の病床稼働率(H25:85.3%)を確保し、前年度比約24億円の病院収入増収を実現した。

[年度計画を大幅に下回っている取組み]

該当なし